

春日井市民病院年報

第 1 卷

(2014)

春日井市民病院

序

当院は「春日井市民病院医報」という年報を昭和61年から毎年刊行し、平成26年3月までに28巻を重ねてきました。この医報では、当院職員が筆頭者として各種学会・研究会で発表した研究、あるいは医学雑誌等に報告した学術論文を掲載してきました。また、当院内の医報委員会に投稿された院内研究に関しても、承認されたものを掲載してきました。しかし、近年では職員数の増加とともに学術活動が活発になってきたこともあり、製本時の厚さがどんどん増加する傾向にありました。医学雑誌等に投稿された論文あるいは学会報告などは発表学会が記載されていますので、ICTが発達した現代ではネットワーク環境で参照することも可能です。このような理由から、今年度から年報として体裁を大幅に変更することとしました。平成25年4月から26年3月までの研究業績に関して、従来は全文を掲載していましたが表題と発表者のみとし、その代わりに病院の施設概要、業務概要、経理概要などを掲載することにしました。今回の平成27年3月発刊の本号が第1巻となります。ご理解いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、院長を拝命して5年になります。この間、地方公営企業として恥ずかしくない経営状態を目指して、職員一丸となって経営改善に邁進してきました。幸いにも医業収益は順調に改善し、今回の年報でご紹介するように平成23年度から25年度にかけて黒字経営となっています。自治体病院が黒字経営である必然性はないというご意見もあるかもしれませんが、しかしながら、当院が地域住民の方々に信頼される病院であるためには、先進的な医療機器の更新が必要です。このことは、働く職員の意欲向上にもつながるものと信じています。現在、隣地に春日井市総合保健医療センター棟が建ちあがりました。この建設に伴い、従来の救急外来を廃し、新たな救急外来を設置し、救急病室も6床確保しました。救急外来受診患者さんで様子観察入院が望ましい方や帰宅困難な方を1日収容し、病院機能が100%稼働する翌日に、その患者さんにとって最も望ましい対応を考慮するための病室です。平成26年6月からは平日夜間休日診療所が活動を開始しました。「断らない救急」をモットーに救急医療を提供してきましたが、救急搬送件数は約10,000件となり、愛知県トップになってしまいました。救急隊からも信頼されている証とは思いますが、やはり過剰労働になっている危険性は否めません。診療所を手伝ってくださる春日井市医師会の先生方の協力を得、当院職員が疲弊しないような状況を作ることができれば幸いと考えています。

国は病院完結型医療から地域完結型医療への変換を目指しています。年報にも示されますように、当院への紹介率あるいは当院からの逆紹介率は着実に上昇し、地域医療支援病院としての活動は順調に進んでいます。是非、年報の統計にもご注目ください。当院は今後も近隣の実地医家の先生方のご協力を頂戴し、地域住民のニーズに応えられる病院を目標として活動していきます。よろしくお願い申し上げます、序の挨拶とさせていただきます。

平成27年3月

院長 渡邊 有三

春日井市民病院の基本理念

春日井市民病院は自治体病院として地域の医療にかかわる要望に誠実かつ不断に応えることを存立の意義とする。

基本方針

- 1 人権の尊重によって築かれる相互の信頼のもとに、医療を受けられる方の意思が反映された医療を行います。
- 2 正当な根拠に基づく良質で高水準の医療を効率的に行うために絶えず研鑽します。
- 3 急性期医療の拡充と専門医療の推進に努めます。
- 4 地域の基幹病院として、医療機関、介護サービス事業者、保健・福祉行政との連携を密にして地域完結型医療を推進します。
- 5 公営企業として健全な経営に努めます。

個人情報保護方針

春日井市民病院では地域の医療にかかわる要望に誠実かつ不断に応えることを基本理念とし、治療を受ける皆様と当院の職員が、相互信頼のもとに良質で高度な医療を提供しています。皆様の個人情報についても、適切に保護し管理することが非常に重要であると考えております。

そのため、当院では次のとおり個人情報保護方針を定め、確実な履行に努めます。

1 個人情報の収集について

当院が治療を受ける皆様の個人情報を収集する場合、診療・看護及び皆様の医療にかかわる範囲で行います。その他の目的で個人情報を収集する場合は、その利用目的をあらかじめお知らせし、同意を得た上で行います。

2 個人情報の利用および提供について

当院は治療を受ける皆様の個人情報の利用については、以下の場合を除き、本来の利用目的の範囲を超えません。

- (1) 治療を受ける皆様の了解をいただいた場合
- (2) 法令等により提供を要求された場合
- (3) 個人を識別あるいは特定できない状態に加工して利用する場合

3 個人情報の適正管理について

当院は治療を受ける皆様の個人情報について、正確かつ最新の状態に保ち、漏えい、紛失、破壊、改ざん等の未然防止に努めます。

4 個人情報の確認・修正等について

当院は治療を受ける皆様の個人情報について、皆様から開示を求められた場合、当院の「診療情報の提供についての指針」に従って対応します。また内容が事実でない等の理由で訂正を求められた場合も、直ちに調査し適切に対応します。

5 問い合わせ等の窓口について

個人情報保護方針や個人情報に関する皆様のお尋ねについては、医事課でお聞きいたします。

6 法令等の遵守と見直しについて

当院は個人情報に関する法令や市条例その他の規範を遵守するとともに、この指針の各項目の見直しを適宜行い、個人情報を保護するために最善の努力をいたします。

平成17年4月1日

個人情報保護管理者

春日井市民病院 院長

目 次

院長挨拶

春日井市民病院の基本理念・基本方針

個人情報保護方針

病院概要

I 施設概要

1 沿革	1
2 歴代院長等	5
3 施設	7
4 施設基準等	8
5 各種指定医・指定医療機関等の状況	10
6 組織	12
7 職員数	13

II 業務概要

1 外来受診者数	14
2 入院者数	16
3 医療連携事業	18
4 紹介・逆紹介患者数及び紹介率	18
5 診療時間外救急受入状況	19
6 予約受診者数	20
7 手術等件数	21
8 人工透析件数	22
9 分娩件数	22
10 剖検件数	22
11 栄養指導等件数	22
12 処方せん枚数、薬剤管理指導件数	22
13 検査件数	22
14 放射線撮影件数	23
15 各種検診等	23
16 がん相談支援センター相談件数	23
17 特殊外来の状況	24
18 主要医療器械備品	25
19 市民公開講座	26

III 経理概要

1 年度別収支状況	27
2 貸借対照表	30
3 経営分析	32

春日井市民病院の変遷	33
地域連携誌「Trinity」の発行	36
中日新聞「リンクト」LINKED	38
平成25年度市民病院フォトギャラリー	39
研究実績		
著書	41
論文	42
総説	46
国際学会	47
全国学会	47
地方学会	57
地方研究会等	60
講演	61
研修会	62
研修医CPC	71
剖検報告	72

病 院 概 要

I 施設概要

1 沿革

昭和26年	8月	春日井市民病院として開院 診療科目 内科、外科 一般病床42床
	12月	産婦人科新設
27年	10月	第2病棟（55床）完成し、97床となる。
30年	3月	市立春日井病院（伝染）、市民病院の併設となる。
33年	3月	耳鼻いんこう科新設
	4月	病棟（50床）増築完成し、147床となる。
34年	7月	国民健康保険診療施設春日井市民病院に改める。
	8月	看護婦宿舎完成（木造2階建）
36年	3月	病院改築第1期工事（A病棟）着工
37年	3月	病院改築第1期工事完成 鉄筋コンクリート造地下1階地上3階、延床3,968.66㎡ 116床
	8月	基準看護実施
	10月	病院改築第2期工事（診療管理棟）着工
38年	1月	基準寝具実施
	4月	病院改築第2期工事完成 鉄筋コンクリート造地下1階地上2階、延床2,030㎡
	8月	小児科、眼科、整形外科新設
39年	4月	公営企業法による財務規定の一部適用
	5月	看護婦宿舎改築工事完成 鉄筋コンクリート造4階建 50人収容
	7月	上八田医師住宅完成 鉄筋コンクリート造2階建 4戸
	8月	救急病院指定
	9月	旧看護婦宿舎を病床（43床）に改造
	12月	病床数一般病床159床、結核病床58床、計217床に変更
41年	8月	病院機構改革 医務局、事務局の2局制となる。
42年	1月	総合病院の名称使用承認
	3月	国保診療施設から独立、春日井市民病院として発足
44年	8月	六軒屋医師住宅完成（4戸）
	10月	X線断層撮影装置整備
45年	1月	脳神経外科新設
	10月	B病棟増築第1期工事着工
46年	3月	B病棟増築第1期工事完成 鉄筋コンクリート造地下1階地上2階、延床1,763.10㎡ 病床数 一般病床284床 結核44床 計328床に変更
	8月	B病棟増築第2期工事着工
47年	2月	B病棟増築第2期工事完成 鉄筋コンクリート造3～5階建、延床2,624.85㎡ 六軒屋医師住宅完成（2戸） 託児所開設

昭和51年	8月	看護婦宿舎建設工事着工
	12月	中央診療管理棟建設工事着工
52年	3月	看護婦宿舎建設工事完成 鉄筋コンクリート造5階建 100人収容
	9月	リハビリ棟（水治療）完成
53年	1月	中央診療管理棟建設工事完成 鉄筋コンクリート造地下1階地上3階、延床3,928.83㎡
	3月	伝染病棟（10床）改築工事完成
	9月	診療棟及びA病棟改造工事完成 病床数 一般病床288床 結核44床 計332床に変更
54年	4月	消化器科独立
	12月	結核病床（44床）を一般病床に変更
55年	12月	病院第2次整備事業着工
56年	9月	A病棟4、5階増築工事完成 鉄筋コンクリート造 延床1,766.59㎡ リハビリ棟（機能回復訓練室）完成 延床397.55㎡
57年	3月	A病棟地階～3階改造工事完成
	5月	病床数 一般病床を449床に変更 基準看護特I類実施
	8月	新中央診療管理棟増築工事完成 鉄筋コンクリート造地下1階地上5階、延床1,741.10㎡ 中央診療管理棟4階増築工事完成 延床191.91㎡ 厨房増築工事完成 延床226.81㎡ 全身用X線コンピュータ断層診断装置（CT）整備
	9月	人工透析部門開設（10床）
58年	6月	基準看護特2類実施
59年	3月	カルテ倉庫兼小動物実験棟完成 延床170.42㎡
61年	4月	在宅酸素療法指導承認
62年	8月	病院第3次整備事業完成 外来部門新設 最新医療機器の導入（ライナック、血管連続撮影装置、CT） 無菌製剤処理施設基準承認
	10月	循環器科、皮膚科新設
63年	4月	病院機構改革 医務局、看護局、事務局の3局制となる。
	11月	病床数 一般病床を484床に変更
平成元年	3月	病床数 一般病床を500床に変更
	3年	4月 呼吸器科新設 磁気共鳴断層撮影装置（MRI）整備
	4年	1月 病診連携室を院内に開設
		4月 結石破碎装置整備 病診連携事業開始
		5月 事務局に病院建設準備室を新設
		6月 新市民病院建設基本構想策定
		7月 体外衝撃波・尿管結石破碎術承認

平成5年	1月	理学療法（Ⅲ）実施
	2月	予約診療開始
	4月	病院建設準備室を病院建設室に改称 伝染病棟を8床に変更
	5月	特別管理給食加算承認 選択メニュー実施
	6月	基準看護特3類（4病棟186床）実施
	7月	体外衝撃波胆石破碎術承認
	8月	理学療法（Ⅱ）実施 外来診療土曜日休診
6年	2月	新市民病院基本設計委託
	5月	高度難聴指導管理承認 薬剤管理指導承認 基準看護特3類（全病棟）実施
	8月	夜間勤務等看護加算承認
7年	5月	新市民病院実施設計委託
	6月	新2対1看護（A）加算
	7月	新市民病院看護職員宿舎工事着手
8年	2月	新市民病院調整池第1期工事
	6月	新市民病院本館建設工事着手
	10月	新市民病院看護職員宿舎入居開始
9年	4月	紹介患者加算（Ⅲ）受理 一般病棟入院時医学管理（Ⅰ）受理
	7月	更生医療指定医療機関指定
	8月	新春日井市民病院外構工事着手
	10月	麻酔科新設（診療科18科に） 麻薬管理料受理 作業療法（Ⅱ）受理
10年	4月	新市民病院研修医宿舎完成
	11月	新市民病院開院 診療科目 22科、一般病床550床（開放型病床50床含む） 被爆者一般疾病医療機関 指定
	12月	補綴物維持管理料 療養環境加算
11年	1月	特定集中治療室管理
	4月	感染症病床 6床 指定
13年	12月	日本病院機能評価認定
15年	4月	女性専用外来開設
	7月	日帰り手術センター開設 医療安全管理室開設 医療相談開始
16年	7月	動脈硬化外来開設
17年	4月	新生児聴覚検査開始 医療連携室開設 おっばい外来開設

平成18年	4月	セカンドオピニオン外来開設
	9月	64列マルチスライス型CT導入
	12月	日本病院機能評価認定（更新）
19年	3月	外来化学療法センター開設
	4月	インターネット検査予約開始
	10月	16列マルチスライス型CT（2台）導入
	12月	ダブルバルーン内視鏡導入
20年	7月	静脈瘤外来開設
	10月	糖尿病指導外来開設
21年	1月	敷地内全面禁煙
	3月	中期経営計画（改革プラン）策定
	7月	糖尿病センター開設
	9月	紹介状持参患者専用窓口開設
22年	2月	省エネ大賞（資源エネルギー庁長官賞）受賞
	3月	中部大学との相互協力に関する覚書締結 災害拠点病院（地域災害医療センター）指定
	4月	助産外来開設
	6月	地域連携ステーション開設
	9月	ブラッドアクセスセンター開設
	12月	感染症病床陰圧装置設置
23年	5月	電子カルテシステム導入 検査・入院案内コーナー設置
	10月	がん相談支援センター移転オープン
	12月	日本病院機能評価認定（更新）
24年	3月	愛知県がん診療拠点病院 指定 災害派遣医療チーム（DMAT）発足
	4月	入院基本料7対1看護体制受理 急性期看護補助体制加算4受理 病棟薬剤業務実施加算受理 病床数 一般病床のうち開放型病床を8床に変更 運動教室開始
	6月	急性期看護補助体制加算2受理 看護職員夜間配置加算受理 元気ショップ（障がい者授産品販売促進事業）開始
	9月	地域医療支援病院承認
	10月	（仮称）春日井市総合保健センター整備工事着工
	11月	急性期看護補助体制加算受理
25年	2月	看護相談外来開設
	10月	もの忘れ外来開設 院内助産開設
26年	1月	神経内科、脳神経外科を総合保健医療センター棟に移設
	2月	救急部門を総合保健医療センター棟に移設 救急病床6床増床（一般病床556床）
	3月	放射線がん治療装置（トモセラピーHD）導入

2 歴代院長等（平成26年4月1日現在）

(1) 歴代院長

竹中元彦	昭26. 4. 1～昭29. 2. 16
後藤力	29. 3. 4～ 30. 12. 27
鈴木茂	30. 12. 28～ 57. 6. 30
大村豊	57. 7. 1～平2. 3. 31
三輪新	平2. 4. 1～ 12. 3. 31
矢野孝	12. 4. 1～ 21. 3. 31
渡邊有三	21. 4. 1～

(2) 歴代名誉院長

鈴木茂	昭57. 7. 1～平2. 3. 31
大村豊	平2. 4. 1～ 4. 3. 31
三輪新	12. 4. 1～ 21. 3. 31
矢野孝	21. 4. 1～ 24. 3. 31

(3) 歴代副院長

梶田武夫	昭26. 6. 1～昭30. 3. 1
林武久	30. 3. 7～ 32. 6. 30
飯田稔	33. 1. 1～ 45. 5. 1
中村金平	40. 8. 6～ 43. 7. 1
福井和典	43. 9. 1～ 49. 3. 31
船越宏恍	45. 3. 16～ 63. 12. 31
大村豊	52. 4. 1～ 57. 6. 30
三輪新	平2. 3. 1～平2. 3. 31
大橋大造	2. 3. 1～ 7. 3. 31
矢野孝	7. 1. 1～ 12. 3. 31
渡邊有三	12. 4. 1～ 21. 3. 31
金井道夫	14. 4. 1～
伊藤和幸	15. 4. 1～ 24. 3. 31
種田陽一	24. 4. 1～ 26. 3. 31
平山幹生	24. 4. 1～
松本修一	26. 4. 1～
佐々木洋光	26. 4. 1～

(4) 歴代事務局長

林稔	昭25. 12. 1～昭29. 2. 1
伊藤六郎	29. 2. 1～ 29. 5. 10
梶田和雄	29. 5. 10～ 30. 6. 12
山崎成穩	30. 6. 13～ 30. 10. 10
伊藤義一	30. 10. 10～ 36. 4. 8
小川幸夫	36. 4. 8～ 42. 6. 30
長江不知男	42. 7. 1～ 50. 6. 30

永 草 宗 司	昭50. 7. 1 ~ 昭54. 3. 31
三 上 坦	54. 4. 1 ~ 58. 3. 31
中 山 茂	58. 4. 1 ~ 62. 3. 31
荒 川 昭	62. 4. 1 ~ 平1. 3. 31
三 上 坦	平1. 4. 1 ~ 5. 3. 31
足 立 栄 一	5. 4. 1 ~ 7. 3. 31
長 江 孝 雄	7. 4. 1 ~ 7. 7. 31
長谷川 典 明	7. 8. 1 ~ 9. 3. 31
稲 田 嘉 道	9. 4. 1 ~ 12. 3. 31
岡 田 滋	12. 4. 1 ~ 17. 3. 31
森 川 利 博	17. 4. 1 ~ 19. 3. 31
梶 田 博	19. 4. 1 ~ 21. 3. 31
森 典 嗣	21. 4. 1 ~ 23. 3. 31
瀧 本 広 男	23. 4. 1 ~

(5) 歴代看護部長

榎 本 まさ子	昭26. 8. 1 ~ 昭48. 8. 30 (看護婦長)
榎 本 まさ子	48. 7. 1 ~ 56. 3. 31 (総看護婦長)
小 林 静 子	56. 4. 1 ~ 平3. 3. 31 (総看護婦長)
中 山 ルミ子	平3. 4. 1 ~ 7. 3. 31
岩 田 恒 子	7. 4. 1 ~ 12. 3. 31
林 静 子	12. 4. 1 ~ 19. 3. 31
蔭 山 幸 枝	19. 4. 1 ~ 24. 3. 31
鈴 江 智 恵	24. 4. 1 ~

3 施設（平成26年4月1日現在）

(1) 所在地 愛知県春日井市鷹来町1丁目1番地1

(2) 施設名 春日井市民病院

(3) 開設者 春日井市長 伊藤 太

(4) 管理者 院長 渡邊 有三

(5) 病床数 一般病床 556床（うち救急部病床 6床）
感染症病床 6床 計 562床

(6) 診療科目 22科
内科、メンタルヘルス科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科

(7) 構造規模 敷地面積 140,200㎡

構 造 市民病院本棟
鉄骨鉄筋コンクリート造
病 棟 地上7階・地下1階
診療棟 地上3階・地下1階
総合保健医療センター棟
鉄骨造
地上4階

延べ面積 47,059㎡
うち市民病院本棟
45,672㎡
うち総合保健医療センター棟
1,387㎡

駐 車 場 1,200台

その他の付属施設

エネルギーセンター、研修医宿舎、看護職員宿舎、保育所

4 施設基準等（平成26年4月1日現在）

(1) 入院基本料に関する事項

- ・一般病棟入院基本料（7対1）

(2) 入院時食事療養費に関する事項

- ・入院時食事療養（Ⅰ）

(3) 基本診療料に関する事項

- ・地域歯科診療支援病院歯科初診料
- ・歯科診療特別対応連携加算
- ・臨床研修病院入院診療加算（医科・歯科）
- ・救急医療管理加算
- ・妊産婦緊急搬送入院加算
- ・医師事務作業補助体制加算2（75対1）
- ・急性期看護補助体制加算（25対1）看護補助者5割未満、看護職員夜間配置加算
- ・療養環境加算
- ・重症皮膚潰瘍管理加算
- ・医療安全対策加算1
- ・感染防止対策地域連携加算
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ・ハイリスク分娩管理加算
- ・救急搬送患者地域連携紹介加算
- ・総合評価加算
- ・病棟薬剤業務実施加算
- ・特定集中治療室管理料3
- ・歯科外来診療環境体制加算
- ・総合入院体制加算2
- ・超急性期脳卒中加算
- ・診療録管理体制加算2
- ・重症者等療養環境特別加算
- ・栄養サポートチーム加算
- ・感染防止対策加算1
- ・患者サポート体制充実加算
- ・ハイリスク妊娠管理加算
- ・退院調整加算
- ・救急搬送患者地域連携受入加算
- ・呼吸ケアチーム加算
- ・データ提出加算2
- ・小児入院医療管理料3

(4) 特掲診療料

- ・高度難聴指導管理料
- ・がん性疼痛緩和指導管理料
- ・糖尿病透析予防指導管理料
- ・夜間休日救急搬送医学管理料
- ・開放型病院共同指導料（Ⅱ）
- ・がん治療連携計画策定料
- ・薬剤管理指導料
- ・歯科治療総合医療管理料
- ・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
- ・HPV核酸検出
- ・検体検査管理加算（Ⅰ）
- ・遺伝カウンセリング加算
- ・植込型心電図検査
- ・ヘッドアップティルト試験
- ・長期継続頭蓋内脳波検査
- ・小児食物アレルギー負荷検査
- ・糖尿病合併症管理料
- ・がん患者指導管理料1,2,3
- ・院内トリアージ実施料
- ・外来リハビリテーション診療料
- ・地域連携診療計画管理料
- ・肝炎インターフェロン治療計画料
- ・医療機器安全管理料1
- ・持続血糖測定器加算
- ・HPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
- ・検体検査管理加算（Ⅳ）
- ・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
- ・時間内歩行試験
- ・皮下連続式グルコース測定
- ・神経学的検査
- ・内服・点滴誘発試験

- ・センチネルリンパ節生検（乳がんに係るものに限る。）併用法・単独法
- ・CT透視下気管支鏡検査加算
- ・大腸CT撮影加算
- ・外来化学療法加算1
- ・心大血管疾患リハビリテーション料（I）初期加算あり
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（I）初期加算あり
- ・運動器リハビリテーション料（I）初期加算あり
- ・呼吸器リハビリテーション料（I）初期加算あり
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・エタノールの局所注入（甲状腺に対するもの）
- ・透析液水質確保加算2
- ・脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術
- ・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
- ・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）、
下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）
- ・乳がんセンチネルリンパ節加算1
- ・経皮的冠動脈形成術
- ・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
- ・経皮的中隔心筋焼灼術
- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
- ・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術（レーザーシースを用いるもの）
- ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
- ・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
- ・経皮的大動脈遮断術
- ・体外衝撃波胆石破碎術
- ・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
- ・体外衝撃波膀胱石破碎術
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術
- ・輸血管理料I
- ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- ・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
- ・高エネルギー放射線治療
- ・口腔病理診断管理加算2
- ・CT撮影及びMRI撮影
- ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- ・無菌製剤処理料
- ・歯科口腔リハビリテーション料2
- ・う蝕歯無痛の窩洞形成加算
- ・経皮的冠動脈ステント留置術
- ・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
- ・経皮的中隔心筋焼灼術
- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
- ・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術（レーザーシースを用いるもの）
- ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
- ・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
- ・ダメージコントロール手術
- ・腹腔鏡下肝切除術
- ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- ・体外衝撃波腎
- ・尿管結石破碎術
- ・輸血適正使用加算
- ・歯周組織再生誘導手術
- ・麻酔管理料（I）
- ・病理診断管理加算2
- ・クラウン・ブリッジ維持管理料

5 各種指定医・指定医療機関等の状況

(1) 指定医・指定医療機関

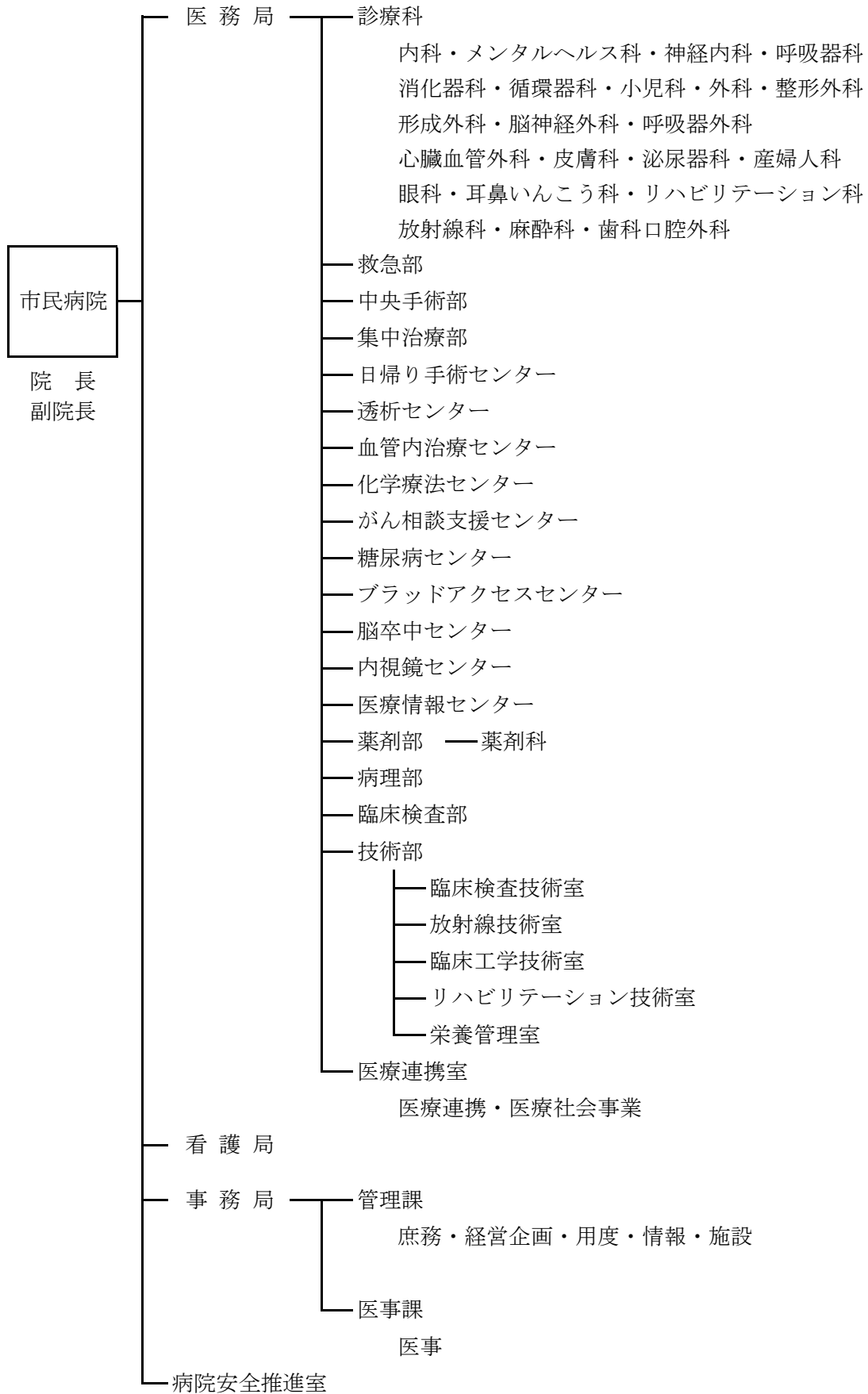
- ・ 保険医療機関
- ・ 被爆者一般疾病医療機関
- ・ 生活保護法指定医療機関
- ・ 労災保険指定医療機関
- ・ 難病医療協力病院
- ・ 臨床研修指定施設（歯科医師法）
- ・ 指定自立支援医療機関
- ・ 肝疾患専門医療機関
- ・ 愛知県がん診療拠点病院
- ・ 地域医療支援病院
- ・ 国民健康保険医療機関
- ・ 救急告示病院
- ・ 結核指定医療機関
- ・ 母体保護法指定医師
- ・ 臨床研修指定病院（医師法）
- ・ 第二種感染症指定医療機関
- ・ 病院機能評価認定病院
- ・ 災害拠点病院（地域災害医療センター）
- ・ DMA T 指定医療機関
- ・ 臓器提供施設

(2) 認定等

- ・ 日本内科学会認定医制度教育病院
- ・ 日本透析医学会専門医制度認定施設
- ・ 日本神経学会専門医制度准教育施設
- ・ 日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設
- ・ 日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・ 日本形成外科学会専門医制度教育関連施設
- ・ 日本呼吸器外科学会専門医制度関連施設
- ・ 日本心臓血管外科専門医認定機構関連施設
- ・ 日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・ 日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
- ・ 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・ 日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・ 日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・ 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
- ・ 日本胸部外科学会認定医認定制度関連施設
- ・ 日本消化器外科学会専門医制度専門医修練施設
- ・ 日本腎臓学会研修施設
- ・ 日本肝臓学会認定施設
- ・ 日本医学放射線学会放射線科専門医制度放射線科専門医修練機関
- ・ 日本外科学会認定医制度修練施設
- ・ 日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所
- ・ 日本口腔外科学会専門医制度研修機関
- ・ 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・ 日本集中治療医学会専門医研修施設
- ・ 日本呼吸器学会認定施設
- ・ 日本心血管インターベンション治療学会研修施設
- ・ 日本小児科学会小児科専門医制度研修施設
- ・ 日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ・ 日本外科学会外科専門医制度修練施設

- ・三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設認定
- ・日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・日本静脈経腸栄養学会NST（栄養サポートチーム）専門療法士実地修練施設
- ・日本病理学会病理専門医制度研修認定施設B
- ・日本輸血細胞治療学会始め4学会認定輸血検査技師制度指定施設
- ・日本栄養療法推進協議会認定NST（栄養サポートチーム）稼働施設
- ・日本脳卒中学会認定研修教育病院
- ・日本病態栄養学会認定栄養管理・NST（栄養サポートチーム）実施施設
- ・日本臨床細胞学会施設認定
- ・日本医療機能評価機構認定
- ・日本感染症学会認定研修施設
- ・日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度周産期（新生児）専門医暫定研修施設
- ・日本手の外科学会認定研修施設
- ・日本糖尿病学会認定教育施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本脈管学会始め関連11学会ステントグラフト実施施設
- ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- ・日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
- ・日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設B
- ・日本医療薬学会がん専門薬剤師制度がん専門薬剤師研修施設
- ・日本臨床細胞学会教育研修施設認定
- ・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設
- ・日本内分泌学会認定教育施設
- ・日本高血圧学会認定研修施設
- ・日本消化管学会2013年度暫定処置による胃腸科指導施設

6 組織（平成26年4月1日現在）



7 職員数

職 種	平成23年度	平成24年度	平成25年度
医 師	158 (32 - 37)	154 (30 - 31)	156 (31 - 31)
薬 剤 師	25 (- 1)	25 (- 1)	27 (- 1)
診療放射線技師	27 (- 1)	28 (- 2)	28 (- 2)
臨床検査技師	30 (- 5)	33 (- 6)	33 (- 6)
理学療法士	8	9	9
作業療法士	4	4	4
あん摩マッサージ指圧師	1	1	1
はり師	1	1	1
臨床工学技士	11	15 (- 2)	15 (- 1)
視能訓練士	2	2	2
言語聴覚士	2 (-)	2	2
臨床心理士	2	2	2
超音波検査士	1	1	1
小 計	114 (- 7)	123 (- 11)	125 (- 10)
助産師	31 (- 3)	35 (- 3)	37 (- 3)
看護師	494 (- 65)	530 (- 78)	569 (- 79)
准看護師	16 (- 2)	21 (- 8)	15 (- 5)
歯科衛生士	3 (1 - 2)	5 (- 4)	6 (- 5)
小 計	544 (1 - 72)	591 (- 93)	627 (- 92)
行政事務職	40 (1 - 5)	38 (1 - 4)	41 (2 - 6)
行政技術職	1	2	2
栄養士	3	3	3
保育士	7 (- 6)	14 (- 13)	14 (- 13)
現業員	1	1	1
用務員	18 (- 17)	55 (- 54)	57 (- 56)
小 計	70 (1 - 28)	113 (1 - 71)	118 (2 - 75)
合 計	886 (34 - 144)	981 (31 - 206)	1026 (33 - 208)

各年度6月1日現在の職員数。(-)は前が嘱託職員、後が臨時職員で内数。

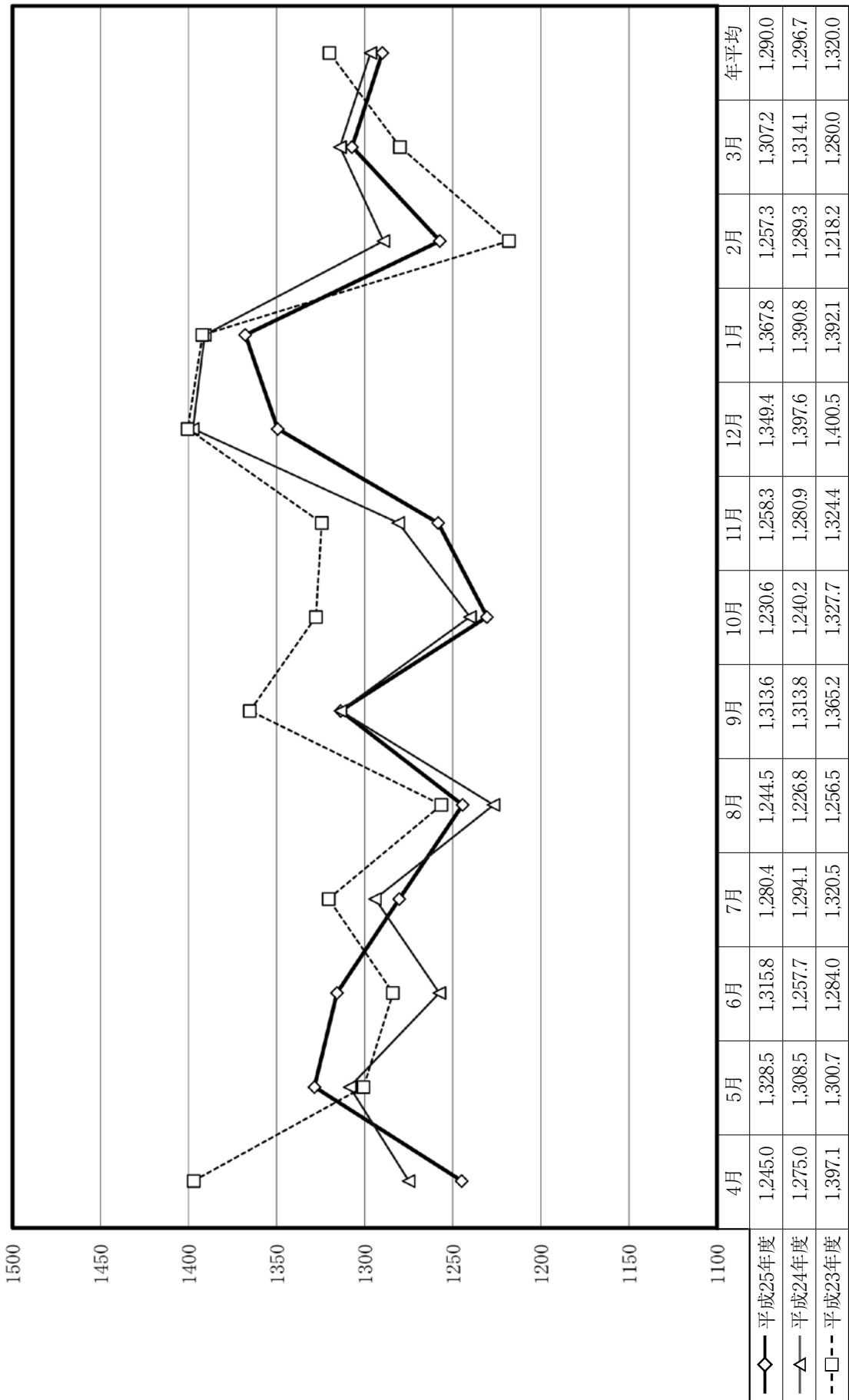
II 業務概要

1 外来受診者数

(単位:人)

科	平成25年				平成26年												計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
内科	4,042	4,226	3,926	4,373	4,207	3,833	4,242	3,909	3,990	4,307	4,045	4,274	49,374				
メンタルヘルス科	467	468	449	497	467	409	436	387	406	392	336	366	5,080				
神経内科	1,756	1,800	1,806	1,783	1,784	1,627	1,667	1,623	1,691	1,666	1,647	1,713	20,563				
呼吸器科	467	600	551	538	558	471	574	528	504	550	460	488	6,289				
消化器科	2,856	3,074	2,853	3,089	2,982	2,761	3,110	2,819	2,982	3,035	2,710	2,867	35,138				
循環器科	1,482	1,489	1,315	1,411	1,322	1,286	1,433	1,386	1,375	1,402	1,235	1,336	16,472				
小児科	2,055	2,232	2,033	2,398	2,344	1,977	2,012	2,069	2,265	2,210	2,032	2,315	25,942				
外科	1,517	1,642	1,444	1,806	1,872	1,696	2,035	1,747	1,809	1,823	1,646	1,801	20,838				
整形外科	2,334	2,487	2,412	2,592	2,367	2,242	2,407	2,281	2,267	2,415	2,051	2,325	28,180				
形成外科	274	314	298	295	304	267	275	256	241	274	263	270	3,331				
脳神経外科	759	798	853	793	732	720	896	712	790	694	627	793	9,167				
呼吸器外科	16	10	17	8	10	13	11	10	12	10	9	13	139				
心臓血管外科	430	378	375	128	4	1	3	2	3	0	2	2	1,328				
皮膚科	1,046	1,190	1,183	1,426	1,390	1,125	1,150	1,008	1,006	1,022	933	1,030	13,509				
泌尿器科	1,550	1,644	1,654	1,694	1,690	1,736	1,719	1,750	1,645	1,529	1,464	1,554	19,629				
産婦人科	824	866	1,007	881	850	936	913	781	813	763	786	847	10,267				
眼科	857	931	874	927	959	773	907	887	790	848	751	826	10,330				
耳鼻いんこう科	1,575	1,662	1,381	1,531	1,554	1,353	1,440	1,419	1,352	1,382	1,306	1,480	17,435				
リハビリテーション科	427	509	445	527	529	485	532	479	473	483	426	436	5,751				
放射線科	231	321	242	165	212	121	37	10	9	5	13	9	1,375				
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
歯科口腔外科	1,180	1,258	1,197	1,306	1,241	1,127	1,274	1,103	1,216	1,178	1,147	1,399	14,626				
計	26,145	27,899	26,315	28,168	27,378	24,959	27,073	25,166	25,639	25,988	23,889	26,144	314,763				
実働日数	21	21	20	22	22	19	22	20	19	19	19	20	244				
1日平均	1,245.0	1,328.5	1,315.8	1,280.4	1,244.5	1,313.6	1,230.6	1,258.3	1,349.4	1,367.8	1,257.3	1,307.2	1,290.0				
平成24年度	25,500	27,479	26,411	27,177	28,217	24,962	27,285	26,899	26,554	26,425	24,497	26,282	317,688				
平成23年度	27,942	24,713	28,248	26,410	28,899	27,304	26,554	26,487	26,609	26,450	25,582	26,881	322,079				

1日平均外来受診者数の推移

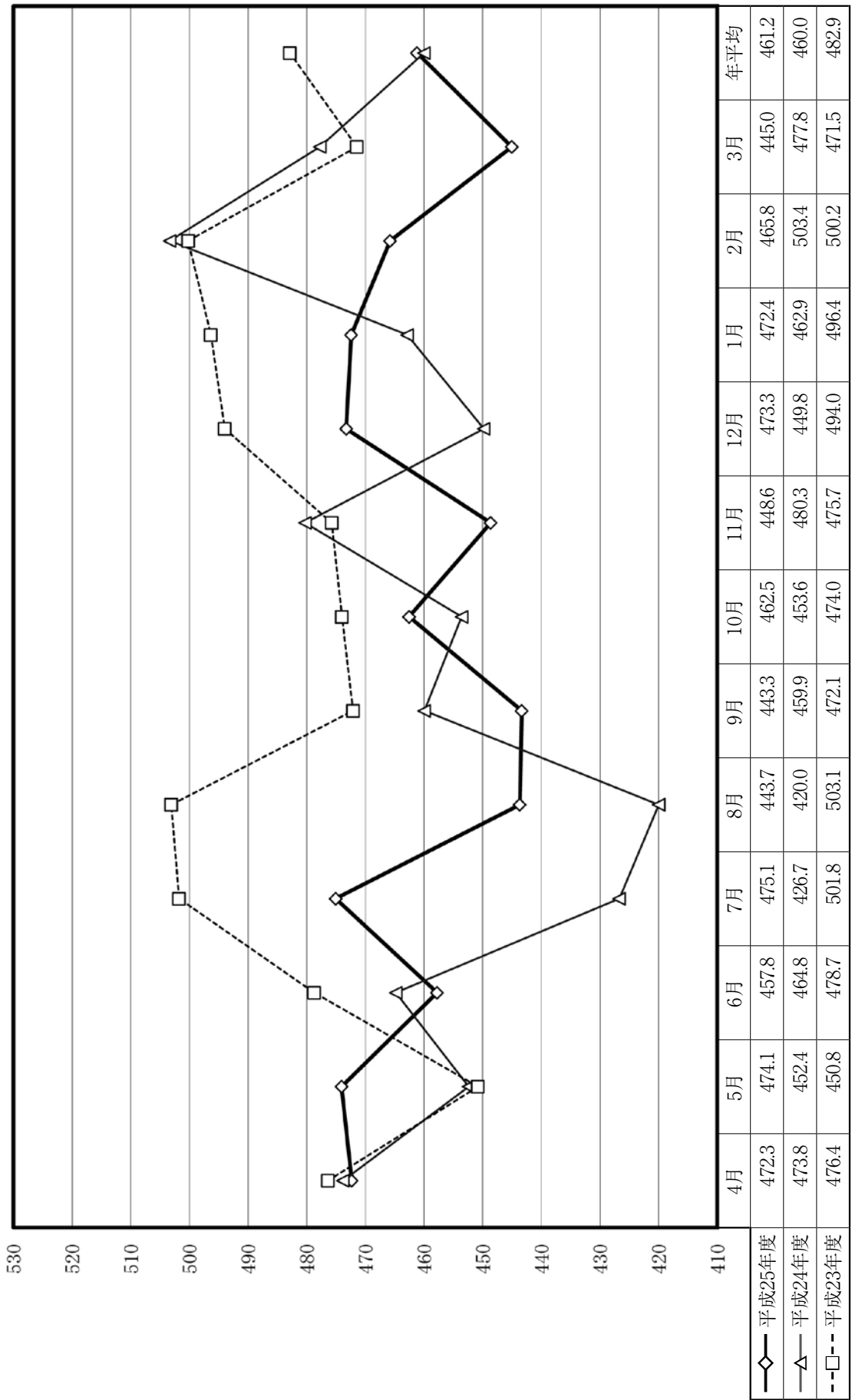


2 入院者数

(単位:人)

科	平成25年				平成26年												計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
内科	1,633	1,727	1,793	1,860	1,582	1,505	1,660	1,667	1,653	1,728	1,600	1,851	20,259				
神経内科	1,389	1,765	1,578	1,862	1,530	1,553	1,502	1,592	1,609	1,859	1,575	1,609	19,423				
呼吸器科	249	327	293	248	312	256	191	333	429	360	216	214	3,428				
消化器科	2,569	2,511	2,549	2,646	2,698	2,312	2,492	2,335	2,329	2,431	2,486	2,660	30,018				
循環器科	1,265	1,153	952	996	1,033	890	898	1,026	1,262	1,323	1,303	1,078	13,179				
小児科	923	995	942	830	883	825	845	950	962	882	734	982	10,753				
外科	1,636	1,700	1,357	1,713	1,489	1,584	1,795	1,418	1,655	1,480	1,462	1,647	18,936				
整形外科	1,661	1,726	1,771	1,759	1,361	1,320	1,941	1,644	1,769	1,845	1,465	1,185	19,447				
形成外科	54	63	52	34	92	47	61	61	76	67	62	81	750				
脳神経外科	782	794	716	768	777	949	908	778	1,013	968	743	741	9,937				
呼吸器外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
心臓血管外科	274	114	48	31	31	8	0	0	0	0	0	0	506				
皮膚科	111	99	73	71	60	79	147	97	43	56	32	66	934				
泌尿器科	370	494	403	469	407	523	463	399	575	588	372	396	5,459				
産婦人科	622	766	761	732	770	742	805	621	673	629	469	615	8,205				
眼科	86	78	76	91	91	96	92	101	65	55	54	104	989				
耳鼻いんこう科	309	178	169	297	223	266	262	144	260	212	242	295	2,857				
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
歯科口腔外科	237	206	200	320	415	345	277	293	298	162	227	272	3,252				
計	14,170	14,696	13,733	14,727	13,754	13,300	14,339	13,459	14,671	14,645	13,042	13,796	168,332				
実働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365				
1日平均	472.3	474.1	457.8	475.1	443.7	443.3	462.5	448.6	473.3	472.4	465.8	445.0	461.2				
新生児	147	235	201	188	115	225	306	197	187	243	117	172	2,333				
感染症病棟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
平成24年度	14,215	14,024	13,944	13,228	13,019	13,798	14,061	14,408	13,944	14,349	14,094	14,811	167,895				
平成23年度	14,292	13,975	14,362	15,555	15,596	14,163	14,694	14,272	15,313	15,387	14,506	14,615	176,730				

1日平均入院患者数の推移



3 医療連携事業

(単位:件)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
紹介受入患者数	20,443	23,251	25,150
診 療	13,467	15,976	17,692
胃 瘻 交 換	88	89	97
P T A	38	17	16
胃 カ メ ラ	490	538	564
腹 部 エ コ ー	65	63	61
心 エ コ ー	102	115	151
注 腸 透 視	185	173	160
脳 波	10	12	4
C T	2,032	2,090	1,986
M R	1,220	1,188	1,263
ア イ ソ ト ー プ	52	51	32
M M G	113	141	121
小 計	4,269	4,371	4,342
外来患者数合計	17,862	20,453	22,147
入 院 患 者 数	2,378	2,796	3,047

科別紹介・逆紹介患者数

(単位:件)

	紹介受入患者数	紹介目的			紹介経路		
		検査	外来	入院	当日	連携室	WEB
内 科	1,849	17	1,389	443	1,359	490	0
神 経 内 科	1,391	5	1,132	254	1,008	383	0
呼 吸 器 科	855	0	706	149	620	235	0
消 化 器 科	3,796	887	2,293	616	1,974	1,627	195
循 環 器 科	2,286	195	1,790	301	1,281	894	111
内 科 小 計	10,177	1,104	7,310	1,763	6,242	3,629	306
メンタルヘルス科	82	0	81	1	62	20	0
小 児 科	1,804	0	1,223	581	1,624	180	0
外 科	1,547	123	1,233	191	1,048	498	1
整 形 外 科	1,384	0	1,206	178	1,009	375	0
形 成 外 科	192	0	189	3	136	56	0
脳 神 経 外 科	583	0	484	99	428	155	0
呼 吸 器 外 科	17	0	16	1	10	7	0
心 臓 血 管 外 科	107	0	102	5	53	54	0
皮 膚 科	584	0	560	24	435	149	0
泌 尿 器 科	1,027	0	1,002	25	733	294	0
産 婦 人 科	707	0	633	74	573	134	0
眼 科	513	0	495	18	438	75	0
耳 鼻 い ん こ う 科	1,274	0	1,211	63	1,001	273	0
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0
放 射 線 科	3,214	3,184	25	5	20	2,748	446
麻 酔 科	0	0	0	0	0	0	0
歯 科 口 腔 外 科	1,938	0	1,922	16	1,700	238	0
計	25,150	4,411	17,692	3,047	15,512	8,885	753
平成 24 年 度	23,251	4,479	15,976	2,796	13,312	9,270	669

4 紹介・逆紹介患者数及び紹介率

(単位:人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
紹介患者数(初診)(A)	15,793	17,239	18,921
救急入院患者数(B)	2,335	2,588	2,398
初診患者数(C)	34,313	35,102	34,701
逆紹介患者数(D)	25,202	22,543	21,273
紹介率(A)+(B)/(C)	52.83%	56.48%	61.44%
逆紹介率(D)/(C)	73.45%	64.22%	61.30%

5 診療時間外救急受入状況

(単位:件)

科	機関	消防署	救急情報センター	医療機関	休日急病診療所	直接	電話依頼	計
内科		718	2	71	13	1,870	925	3,599
メンタルヘルス科		0	0	0	0	0	1	1
神経内科		1,448	2	112	6	843	527	2,938
呼吸器科		208	1	40	5	210	152	616
消化器科		797	0	135	18	1,650	889	3,489
循環器科		538	0	52	2	431	318	1,341
小児科		552	2	462	53	2,760	2,343	6,172
外科		135	1	83	16	215	132	582
整形外科		1,019	1	91	18	2,156	1,090	4,375
形成外科		24	0	3	1	132	99	259
脳神経外科		936	0	40	4	781	593	2,354
呼吸器外科		1	0	2	0	4	1	8
心臓血管外科		3	0	0	1	1	0	5
皮膚科		38	1	17	1	542	373	972
泌尿器科		119	1	19	1	349	255	744
産婦人科		51	0	13	2	161	431	658
眼科		16	0	3	0	127	142	288
耳鼻いんこう科		131	0	32	2	642	442	1,249
リハビリテーション科		0	0	0	0	0	0	0
放射線科		0	0	0	0	7	5	12
麻酔科		1	0	0	0	0	0	1
歯科口腔外科		47	1	12	1	206	121	388
計		6,782	12	1,187	144	13,087	8,839	30,051
平成24年度		6,796	8	1,196	162	12,854	9,742	30,758
平成23年度		6,759	10	1,149	109	12,501	10,221	30,749

6 予約受診者数

科	予約状況 (人)		再来受診	予約率	予約午後診察
	予約受診	1日平均			
内科	41,790	171.3	42,800	97.6%	18,351
メンタルヘルス科	4,654	19.1	4,888	95.2%	413
神経内科	13,812	56.6	15,907	86.8%	8,496
呼吸器科	3,582	14.7	4,664	76.8%	427
消化器科	18,231	74.7	28,650	63.6%	11,702
循環器科	13,227	54.2	14,416	91.8%	5,847
小児科	15,084	61.8	19,312	78.1%	7,029
外科	20,996	86.0	18,885	111.2%	4,821
整形外科	16,839	69.0	20,940	80.4%	2,863
形成外科	2,908	11.9	2,699	107.7%	413
脳神経外科	4,062	16.6	5,969	68.1%	922
呼吸器外科	164	0.7	138	118.8%	17
心臓血管外科	1,160	4.8	1,200	96.7%	226
皮膚科	10,032	41.1	10,930	91.8%	515
泌尿器科	14,284	58.5	17,660	80.9%	4,082
産婦人科	14,625	59.9	8,679	168.5%	4,523
眼科	9,798	40.2	9,129	107.3%	1,886
耳鼻いんこう科	12,278	50.3	14,206	86.4%	2,261
リハビリテーション科	5,746	23.5	5,747	100.0%	8,670
放射線科	529	2.2	1,281	41.3%	195
麻酔科	0	0.0	0	0.0%	235
歯科口腔外科	12,255	50.2	10,843	113.0%	2,385
計	236,056	967.4	258,943	91.2%	86,279
平成24年度	234,648	957.7	260,102	90.2%	84,788
平成23年度	238,188	976.2	265,123	89.8%	88,717

7 手術等件数

(単位:件)

区分	年月	平成25年												平成26年			月平均
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計			
手	内科	17	15	15	33	26	21	14	23	22	23	14	21	244	20.3		
	メンタルヘルス科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0		
	神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0		
	呼吸器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0		
	消化器科	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.3		
	循環器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0		
	小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0		
	外科	107	129	109	133	126	116	147	112	119	114	106	102	1,420	118.3		
	整形外科	64	63	81	88	50	54	90	74	83	74	61	72	854	71.2		
	形成外科	4	8	5	5	8	4	7	11	5	4	4	6	71	5.9		
	脳神経外科	12	12	11	20	24	14	14	21	9	12	9	11	169	14.1		
	呼吸器科	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	3	0.3		
	心臓血管外科	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0.4		
	皮膚科	3	2	3	3	3	2	3	3	3	4	5	6	40	3.3		
	泌尿器科	18	23	15	19	12	14	19	20	18	14	12	19	203	16.9		
	産婦人科	27	39	37	31	40	40	39	31	33	35	20	32	404	33.7		
	眼科	29	24	34	44	39	36	30	33	25	22	28	36	380	31.7		
	耳鼻いんこう科	16	14	5	19	17	20	22	12	15	14	11	18	183	15.3		
	リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0		
	放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0		
麻酔科	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0.2			
歯科口腔外科	14	11	6	18	13	14	18	10	12	9	11	14	150	12.5			
計		319	340	321	414	358	404	351	344	325	282	337	4,131	344.3			
平成24年度		345	369	343	331	403	405	370	357	364	325	357	4,305	358.8			
平成23年度		347	298	346	372	416	319	361	349	335	347	353	4,193	349.4			
眼 レンズ	平成25年度	27	24	32	40	35	33	23	31	22	21	27	29	344	28.7		
	平成24年度	43	40	36	51	40	36	48	37	40	31	26	34	462	38.5		
	平成23年度	39	35	33	34	49	23	39	36	41	39	38	29	435	36.3		
	平成25年度	7	8	9	4	10	7	10	7	2	4	3	5	76	6.3		
ESWL	平成24年度	5	5	10	7	6	9	5	7	4	4	6	3	71	5.9		
	平成23年度	5	9	4	7	2	11	9	7	12	7	5	80	6.7			

8 人工透析件数

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度
件数	10,983	13,172	11,874
月平均	915.3	1,097.7	989.5

9 分娩件数

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度
件数	564	450	437

10 剖検件数

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度
件数	12	11	15

11 栄養指導等件数

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度
栄養指導	1,390	1,570	1,892
栄養サポートチーム	199	264	232

(単位:件)

12 処方せん枚数、薬剤管理指導件数

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度
入院	65,007	68,537	70,267
外来処方せん	17,683	18,091	17,626
薬剤管理指導	10,852	12,857	11,409
T P N無菌調製	6,943	5,459	6,654
化学療法調製件数	6,005	6,422	5,131
注射せん枚数	135,284	117,796	128,748
計	241,774	229,162	239,835
院外処方せん	149,031	139,624	136,266
院外処方せん発行率	89.4	88.5	88.5

13 検査件数

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度
生化学	1,682,052	1,777,204	1,870,717
免疫	160,436	168,228	177,076
血液	656,291	696,421	732,310
一般	439,377	454,044	475,911
細菌	43,061	44,581	49,587
病理	12,456	12,546	12,764
生	32,070	33,342	32,652
計	3,025,743	3,186,366	3,351,017

14 放射線撮影件数

区	分	平成23年度	平成24年度	平成25年度
一般	単純撮影	71,186	73,900	75,320
	ポータブル	10,453	10,862	10,541
骨塩	測定	334	567	596
M	R	12,258	13,605	14,474
乳腺	エコー	1,353	1,422	1,446
C	T	32,473	34,971	38,282
泌尿器科・婦人科	撮影	247	266	285
透視	U G I	316	312	315
	腸	631	454	472
	透視検査	4,600	4,937	5,589
ア	イソトープ	1,152	1,062	1,466
放射線	治療	3,622	3,286	1,955
血管	心カテー	1,144	1,152	1,060
	脳・腹部・その他	1,267	992	889
נית	画像入力	2,549	3,070	3,309
	画像出力	3,976	5,435	7,007
E S W L	L	140	120	120
計		147,701	156,413	163,126

15 各種検診等

区	分	件数	金額	健診日
乳児	健診	421	2,220,418	毎週金曜日
妊婦	健診	4,480	33,799,275	平日診療日
被爆者	健診	49	366,373	6月・11月
乳児等	予防接種	283	2,956,013	毎週火・木曜日
インフルエンザ	予防接種(高齢者)	918	2,293,156	10月～12月
X - P	委託	8	16,800	
結核	定期病状調査	15	45,000	
その他	他	694	6,851,025	
計		6,868	48,548,060	

16 がん相談支援センター相談件数

(単位:件)

区	分	平成23年度	平成24年度	平成25年度
件数		711	1,187	1,251

17 特殊外来の状況

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	24年度	23年度
女性専用外来	3	1	1	1	1	1	2	0	0	2	1	0	13	1	10	31
新生児聴覚検査	25	36	37	24	22	33	46	34	30	44	18	26	375	31	387	495
美容相談	18	21	15	12	15	11	15	15	9	8	10	10	159	13	198	181
日帰り手術	消化器科	24	24	27	24	24	30	23	24	19	18	24	291	24	285	280
	外科	12	16	13	13	12	15	14	13	11	5	8	144	12	161	167
	形成外科	1	0	1	0	0	1	1	2	1	2	0	10	1	8	8
	計	43	40	38	40	36	46	38	39	31	25	32	445	37	454	455
糖尿病センター	302	313	296	335	342	326	363	346	351	332	328	338	3,972	331	3,204	2,191
外来化学療法	314	361	312	309	337	290	317	308	274	298	307	302	3,729	311	4,177	4,145
エピペん外来	2	4	4	4	5	1	3	2	6	4	5	0	40	3	19	0

18 主要医療器械備品（平成25年度購入分）

※購入金額：税込1,000万円以上

No.	器 械 名	購入年月日	所 属
1	大動脈内バルーンポンプ	8月27日	循環器科
2	超音波画像診断装置	1月10日	外科
3	脊椎内視鏡手術システム	1月23日	整形外科
4	一般X線撮影 間接変換F P D装置	2月17日	放射線技術室
5	コンピュータ断層撮影装置（16列C T）	2月18日	放射線技術室
6	放射線治療装置（トモセラピーHD）	3月25日	放射線技術室

19 市民公開講座

平成23年度

日付	題名	診療科	講師	参加人数
6月4日(土)	足の血管のお話	血管内治療センター	大場 泰洋	186人
	足の血管の検査	臨床検査技術室	若林 弥生	
9月3日(土)	がん患者さんのメンタルケア ～緩和ケアチームの取り組み～	精神科	長島 渉	31人
		看護局	森本 優子	
12月3日(土)	胃がんのはなし	消化器科	坂本 知行	69人
	大腸がんのはなし	日帰り手術センター	笹本 彰紀	
2月18日(土)	糖尿病治療の展開	糖尿病センター	松田 淳一	60人
	糖尿病から足を守る	看護局	谷口 美和子	
	糖尿病の薬について	薬剤科	田中 伸明	

平成24年度

日付	題名	診療科	講師	参加人数
6月9日(土)	婦人科のがんについて	産婦人科	下村 裕司	59人
	婦人科の漢方治療について	産婦人科	早川 博生	
9月8日(土)	慢性閉塞性肺疾患(COPD)について	呼吸器科	鳥居 正芳	49人
	楽に息をする、楽に動ける体を作る	リハビリテーション技術室	山下 裕	
12月2日(日)	心臓発作の治療と予防	循環器科	寺沢 彰浩	550人
	脳卒中の治療と予防	神経内科	寺尾 心一	
3月2日(土)	腰部脊柱管狭窄症について	整形外科	泉田 誠	207人
	関節リウマチ治療の現状について	副院長(整形外科)	種田 陽一	

平成25年度

日付	題名	診療科	講師	参加人数
6月8日(土)	心臓発作の治療と予防	循環器科	寺沢 彰浩	110人
	脳卒中の治療と予防	神経内科	寺尾 心一	
11月2日(土)	糖尿病の現状と最新の治療について	内科(医務局長)	佐々木 洋光	130人
	糖尿病の予防について	糖尿病センター	松田 淳一	
12月7日(土)	がんを乗り越えて	NPO法人ミーネット	渡辺 茂樹	260人
	ここまで進んだ早期消化管がん (胃・食道・大腸)の診断・治療	消化器科	平田 慶和	
	がん腹腔鏡手術治療について	日帰り手術センター	渡邊 真哉	
2月15日(土)	もの忘れと認知症について	神経内科	寺尾 心一	220人
	退院支援サービスについて	地域連携ステーション	白澤 恵	

Ⅲ 経理概要

1 年度別収支状況（消費税抜）

(1) 総括

（単位：円）

科 目	平成23年度	平成24年度	平成25年度
病院事業収益	13,401,266,650	14,256,469,035	14,253,019,704
病院事業費用	13,304,048,020	13,959,731,277	13,994,321,952
差引純損益	97,218,630	296,737,758	258,697,752
資本的収入	320,994,667	381,987,667	195,178,001
資本的支出	1,228,362,406	1,158,260,277	1,892,982,994
資本的収支差引	△ 907,367,739	△ 776,272,610	△ 1,697,804,993

(2) 収益的収支

病院事業収益

(単位:円)

科 目	平成23年度	平成24年度	平成25年度
医業収益	12,582,314,919	13,415,824,247	13,357,505,924
入院収益	8,559,460,912	9,307,901,300	9,172,751,757
外来収益	3,647,722,209	3,757,849,772	3,835,991,913
その他医業収益	375,131,798	350,073,175	348,762,254
医業外収益	818,951,731	840,644,788	895,513,780
受取利息配当金	4,157,033	1,469,852	2,044,545
他会計補助金	635,135,000	662,840,000	708,915,000
補助金	28,282,000	22,279,000	22,195,000
その他医業外収益	151,377,698	154,055,936	162,359,235
特別利益	0	0	0
固定資産売却益	0	0	0
計	13,401,266,650	14,256,469,035	14,253,019,704

病院事業費用

科 目	平成23年度	平成24年度	平成25年度
医業費用	12,576,766,451	13,248,930,807	13,254,025,271
給与費	6,176,630,671	6,442,024,099	6,853,127,928
材料費	2,723,496,873	2,760,781,670	2,599,307,672
経費	2,324,378,729	2,648,311,565	2,387,245,705
減価償却費	1,297,672,637	1,339,334,829	1,348,866,111
資産減耗費	26,471,506	21,315,237	26,159,124
研究研修費	28,116,035	37,163,407	39,318,731
医業外費用	694,360,538	688,328,910	708,176,797
支払利息及び 企業債取扱諸費	250,693,955	237,908,673	224,873,465
繰延勘定償却	157,790,000	167,290,000	149,904,000
雑損失	285,876,583	283,130,237	333,399,332
特別損失	32,921,031	22,471,560	32,119,884
固定資産売却損	0	0	0
過年度損益修正損	32,921,031	22,471,560	14,876,103
その他特別損失	0	0	17,243,781
計	13,304,048,020	13,959,731,277	13,994,321,952

(3) 資本的収支

資本的収入

(単位:円)

科 目	平成23年度	平成24年度	平成25年度
企 業 債	0	0	0
出 資 金	107,468,000	177,321,000	180,580,000
負 担 金	0	0	0
工 事 収 入	0	0	0
他会計貸付金返還金	200,000,000	200,000,000	0
固定資産売却代金	0	0	0
その他資本的収入	9,566,667	4,666,667	10,500,001
国 庫 補 助 金	0	0	0
県 補 助 金	3,960,000	0	4,098,000
計	320,994,667	381,987,667	195,178,001

資本的支出

科 目	平成23年度	平成24年度	平成25年度
建 設 改 良 費	442,165,497	406,965,676	1,135,848,535
償 還 金	696,496,909	709,282,191	722,317,399
投 資	42,200,000	42,012,410	34,817,060
開 発 費	47,500,000	0	0
計	1,228,362,406	1,158,260,277	1,892,982,994

2 貸借対照表(消費税抜)

資産の部

(単位:円)

科 目	借 方		
	平成23年度	平成24年度	平成25年度
固定資産	28,115,260,633	26,995,271,575	26,742,863,999
有形固定資産	26,753,477,622	25,803,476,154	25,572,195,299
土地	8,351,700,767	8,351,700,767	8,351,700,767
建物	12,608,282,369	12,255,064,899	11,901,847,429
建物附属設備	3,540,905,803	2,960,316,082	2,379,981,553
構築物	286,694,521	281,514,528	277,155,714
器械備品	1,964,523,953	1,950,646,152	2,270,457,667
車両運搬具	1,370,209	4,233,726	7,040,454
建設仮勘定	0	0	384,011,715
無形固定資産	17,243,781	17,243,781	0
電話加入権	17,243,781	17,243,781	0
投資	1,344,539,230	1,174,551,640	1,170,668,700
貸付金	1,344,500,000	1,174,500,000	1,170,600,000
その他投資	39,230	51,640	68,700
流動資産	7,145,306,065	8,282,672,843	9,139,045,104
現金預金	4,932,710,146	5,962,355,157	6,969,471,617
未収金	2,030,860,145	2,144,721,123	2,000,851,584
保管有価証券	1,000,000	1,000,000	0
有価証券	0	0	0
貯蔵品	180,735,774	174,596,563	168,721,903
繰延勘定	595,412,000	428,122,000	278,218,000
開発費	595,412,000	428,122,000	278,218,000
控除対象外消費税 及び地方消費税	0	0	0
資産合計	35,855,978,698	35,706,066,418	36,160,127,103

負債・資本の部

科 目	貸 方		
	平成23年度	平成24年度	平成25年度
固定負債	1,597,779,943	1,710,009,450	1,656,648,971
引当金	1,597,779,943	1,710,009,450	1,656,648,971
退職給与引当金	803,492,943	720,342,450	824,371,971
修繕引当金	794,287,000	989,667,000	832,277,000
その他固定負債	0	0	0
流動負債	1,378,659,037	1,351,740,683	2,137,213,218
未払金	1,373,450,394	1,346,677,040	2,131,658,305
預り有価証券	1,000,000	1,000,000	0
前受金	4,208,643	4,063,643	4,554,913
その他流動資産	0	0	1,000,000
負債合計	2,976,438,980	3,061,750,133	3,793,862,189
資本金	32,326,164,713	31,794,203,522	31,586,938,123
自己資本金	19,165,721,494	19,343,042,494	19,858,094,494
借入資本金	13,160,443,219	12,451,161,028	11,728,843,629
企業債	13,160,443,219	12,451,161,028	11,728,843,629
剰余金	553,375,005	850,112,763	779,326,791
資本剰余金	6,172,052,609	6,172,052,609	6,177,040,885
受贈財産評価額	209,501,525	209,501,525	210,391,801
国庫補助金	473,466,084	473,466,084	473,466,084
寄附金	0	0	0
県補助金	155,170,000	155,170,000	159,268,000
負担金	5,333,915,000	5,333,915,000	5,333,915,000
利益剰余金	△ 5,618,677,604	△ 5,321,939,846	△ 5,397,714,094
減債積立金	0	0	0
建設改良積立金	334,472,000	334,472,000	0
当年度末処分利			
益剰余金 (当年度末処理欠損金)	△ 5,953,149,604	△ 5,656,411,846	△ 5,397,714,094
資本合計	32,879,539,718	32,644,316,285	32,366,264,914
負債・資本合計	35,855,978,698	35,706,066,418	36,160,127,103

3 経営分析

項 目				平成23年度	平成24年度	平成25年度		
病 利 用 床 率	一	般	年間入院患者数/年間延病 床数×100	(%)	87.8	83.6	83.7	
	感	染	年間入院患者数/年間延病 床数×100	(%)	0.0	0.0	0.0	
患 者 数	外来・入院患者比率		年間外来患者数/年間延入 院患者数×100	(%)	182.2	189.2	187.0	
	職員1人 1日当たり 患者数	医 師	入院	年間延入院患者数/年間延 医師数	(人)	3.8	3.6	3.6
			外来	年間延外来患者数/年間延 医師数	(人)	6.9	6.8	6.8
		看 護 部 門 職 員	入院	年間延入院患者数/年間延 看護部門職員数	(人)	0.9	0.8	0.8
			外来	年間延外来患者数/年間延 看護部門職員数	(人)	1.7	1.5	1.4
平均 在 院 日 数			延在院患者数/(入院患者 数+退院患者数)÷2	(日)	13.4	12.1	11.8	
平均外来一人当たり通院回数			年間外来患者数/年間新規 外来患者数	(回)	5.7	5.5	5.6	
収 入	患者1人 1日当たり 診療収入	入 院	入院収益/年間延入院患者 数	(円)	48,432	55,439	54,492	
		外 来	外来収益/年間延外来患者 数	(円)	11,326	11,829	12,187	
薬 品	患者1人1日当たり 薬 品 費		薬品費(投薬注射)/年間 延患者総数	(円)	2,055	2,071	2,114	
	薬 品 使 用 効 率		薬品収入/薬品費(投薬注 射)×100	(%)	67.4	65.8	70.4	
診 療 収 入 に 対 し て	投 薬 注 射 収 入		投薬注射収入/入院外来収 益×100	(%)	5.7	5.1	5.5	
	検 査 収 入		検査収入/入院外来収益× 100	(%)	8.5	8.2	8.5	
	放 射 線 収 入		放射線収入/入院外来収 益×100	(%)	7.2	6.7	7.1	
医 業 収 益 に 対 し て	薬 品 費		薬品費(投薬注射)/医業 収益×100	(%)	8.1	7.5	7.6	
	医 療 材 料 費		医療材料費/医業収益×100	(%)	21.6	20.6	19.5	
	職 員 給 与 費		職員給与費/医業収益×100	(%)	49.1	48.0	51.3	
総 収 支 比 率			総収益/総費用×100	(%)	100.7	102.1	101.8	
経 常 収 支 比 率			経常収益/経常費用×100	(%)	101.0	102.3	102.1	
医 業 収 支 比 率			医業収益/医業費用×100	(%)	100.0	101.3	100.8	

春日井市民病院の変遷



昭和26年

昭和26年8月 春日井市民病院として開院。
診療科目は、外科と内科。一般病床は42床でした。
昭和34年に病院名が国民健康保険診療施設春日井市民病院になりました。



昭和39年

昭和39年 診療科も救急病院の指定を受けました。
増築も進み、一般病床159床、結核病床58床の計
217床になりました。



昭和57年

病院の整備計画によりCT装置、血管撮影装置、放射
線治療装置など高度医療機器の導入も進み、昭和
57年には一般病床が449床になりました。



平成26年

今までの医報に代わり初版の年報を発行するにあたり、当院の変遷をまとめました。約65年という月日に建物だけでなく、医療の進歩もうかがうことができます。昔から比べると、受診者の方々にとって安心・安全で高度な医療が充実しただけでなく、働く職員にとってもやさしく充実した環境になっています。



昭和37年

昭和37年 鉄筋コンクリート造地下1階地上3階に建て替えられました。一般病床は116床になりました。



昭和42年

昭和42年 総合病院の名称使用が承認され、国保診療施設から独立しました。病床数も一般病床284床、結核病床44床 計328床になりました。



平成11年

平成11年 鷹来町に新築移転。診療科目22科、一般病床550床になりました。地域の基幹病院として診療の充実を図り、平成24年には愛知県がん診療拠点病院の認定を受けました。

救急車の受け入れ台数が愛知県でもトップクラスとなり、救急部が手狭になってきました。平成26年 総合保健医療センター棟が完成し、救急部の移設とともに神経内科と脳神経外科も移設して脳卒中センターを設置しました。病床数は一般病床556床、感染症6床、計562床になりました。

平成26年2月18日に救急部を移転・拡充しました

総合保健医療センターの整備に伴い、6室の救急病床や救急専用のコンピューター断層装置などを設置した新たな救急部を同センター内に移設し、救急機能の充実を図りました。また、脳血管疾患に対処する脳卒中センターの開設、既設診療棟の救急部跡を内科系診察室や内視鏡室などに改修して医療機能の充実を図りました。



救急処置室

広い救急処置室

広い救急処置室において救急車到着直後から迅速な処置が行えます。

病態の急変に対応するため救急病室6室と経過観察室を備え、万全の体制です。

搬送経路も整備され、手術が必要な患者さんはスムーズに手術室へ入室できます。



救急病室

日本屈指の救急実績

救急部では、平成24年度の救急車搬入台数は9,860台と愛知県1位、日本全国8位(週刊ダイヤモンド調べ)の実績でした。

今後も断らない救急を続けるための基盤がここにあります。



経過観察室

少しでも安全に

重症患者さんは、移動などによる刺激でも血圧が大きく変動して、容体が急変することがあります。そのリスクを少しでも減らすために、救急専用16列マルチスライスCT装置とX線撮影装置を同じ部屋に配置しています。

患者さんは移動せずに多種の画像検査を受けることができます。



救急専用マルチスライスCT装置

落ち着いた待合ホール

診察を待つ時間は長く感じます。

救急受付前には、ゆったりとした待合ホールがあり、落ち着いて待つことができます。

また、診療棟の内科待合室ともつながっているため、待合スペースを広げることが可能となり、インフルエンザの方を離れた場所でお待ちいただくなど感染防止にも有効です。



救急受付と患者待合ホール

安心できる診療

歩いて来院される方にも重症な方が、いらっしゃいます。医師、看護師がトリアージを行い、重症な方をすぐに診察できる体制を整えています。

診察室は3室で、少しでも待ち時間の少ない診療が可能となりました。

電子カルテにより情報の共有化ができるため、より安全な医療を受けることができます。



救急診察室

救急部の平面図



救急部の概要

施設	救急病室	6室
	診察室	3室
	救急処置室	1室
	処置観察室	1室
	CT・X線撮影室	1室
	救急事務室(受付)	1室
面積	839㎡	

地域連携誌「Trinity」の発行

市民病院では平成23年2月から年4回、地域の医療機関の皆様へ地域連携誌「Trinity」を発行しています。

最近の医療の話題や当院の治療実績、メディカルスタッフやチーム医療の活動紹介等を取り上げています。

春日井市民病院ホームページからもご覧いただけます。

平成23年2月～平成26年2月までの「Trinity」表紙



ごあいさつ

春日井市民病院 院長 渡邊有三

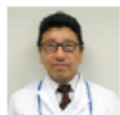


日頃から医療連携事業に格別のご理解とご協力をいただき、心からお礼申し上げます。地域医療の分担が十分に機能するために、当院では今年1月から紹介状をお持ちでない受診者の方の選定療養費（未紹介患者初診料）を1,050円から2,100円に増額いたしました。未紹介の受診者の方々方が市民病院でなく、かかりつけ医の先生方を受診していただければと考えております。これにともない市民病院は紹介受診者と入院患者への医療機能を高めてまいる所存です。

今回、まことに勝手ながら医療機関の先生方、職員の方を対象とした情報誌「Trinity」を発行させていただきました。患者さん、診療所の先生方、私たち急性期病院が三位一体で地域医療を推進していきたいとの気持ちをこめて名づけました。発行は年4回を予定しており、これにより皆様方と情報の共有化ができれば、また、ご意見をいただける場所としても利用させていただければと考えております。どうしても医療に少し硬い話題ばかりにはなってしまいますが、少しでも楽しんで読んでいただければ幸いです。今後とも職員一同努力していきますので、春日井市民病院のご利用をよろしく願いいたします。



電子カルテ導入に当たって 春日井市民病院 副院長 金井道夫



春日井市民病院では、これまで患者さんの診療記録(カルテ)を「紙カルテ」に記録し管理してきましたが、本年5月1日からはコンピュータで記録・管理する「電子カルテ」に変わりました。電子カルテを導入するに当たり、御協力をいただき、誠にありがとうございました。

電子カルテは全ての診療情報を一括管理することで、必要な情報を瞬時に取り出すことが可能となります。例えば診察室に設置したモニター上に、過去の検査結果や放射線などの画像と現在のそれとを比べ、比較して診断するといったことが簡単にできるようになります。

また、患者さんがモニターを見ながら説明を受けることで、診療方針に対する理解が深まり、インフォームドコンセントの向上につながります。



ごあいさつ

春日井市民病院 事務局長 瀬本広男



平成23年4月の人事異動で、病院事務局長を拝命しました。改革期にある自治体病院の事務局長という重責に覚悟の毎日です。

今度の異動により、病院勤務は2度目となります。

病院との最初の関わりは、平成9年当時の病院建設役へ異動となり、現在の市民病院建設に関わったこと始まります。その後、病院経理課、製薬課、上下水道部へ異動し、再度市民病院へ戻ることとなりました。

「院外生活のなかで、最も印象に残っている事業は？」と問われれば、やはり病院建設というプロジェクトに関わったことだと思います。平成10年11月の開院のち、旧病院（八田町）からの引っ越しの作業が、今でも懐かしく思われます。

ところで、自治体病院を取り巻く経営環境は、年々厳しくなっています。

当院では、こうした状況を受け、地域において必要な医療を安定的かつ継続的に提供していくため、中期経営計画を平成21年3月に策定しました。この計画において、今後当院が地域において果たすべき役割を明確にすることにも、具体的な取り組みについて示しております。

特に医療連携につきましては、より一層の強化に努めてまいりますので、皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

救急医療への取り組み



院長 渡邊 有三

救急医療連携システムの導入

地域のみならず安心して生活するために救急医療の充実はもとより大切なことです。春日市民病院では迅速な対応が求められる救急医療に対して安全を最優先して十分な体制で行っています。これにより、平成21年度は172台、平成22年度は5980台と高度救急車で一番多い救急車を受け入れることができました。今後も高いレベルでの救急医療を迅速かつ安全に行っていくように努めてまいります。

春日市民病院では救急医療の質をさらに高めるために平成23年11月1日から医療画像（CT 画像、MRI 画像、超音波画像、レントゲン写真など医療画像の全て）が院内で閲覧できるシステムを導入した医療連携システムとして初めて導入いたしました。当院医師から専門医や上級医にコンサルトする際、専門医や上級医がいつでも画像を確認することで迅速な診断や手術を行うことができるようになり、さらに救急医療の充実を図ることが可能になりました（院内医療連携システム）。また専門医の上級医師の院外医療連携体制も所帯することが可能なのですが、当院は脳卒中、交通事故、難治性難病、急性重症な救命医療が得意な救急患者さんの受け手が強い「脳神経外科」「外科」「心臓血管外科」「消化器内科」で365日24時間体制の運用を行ってまいります。

今後も春日市民病院では救急医療の充実を最大の課題と見え、常に努力してまいりますのでご協力よろしくお願いいたします。

糖尿病の医療連携



医務局長 佐々木 輝光

旧年中は医療連携について何かとお話になりました。皆様方の御協力もありまして紹介率・逆紹介率ともに顕著に増加しており、当院の目標とする地域医療連携病院承認に向けてもう少しの所まで来ております。医療連携官長として御礼申し上げます。さて、私の専門分野は糖尿病・内分泌です。糖尿病の医療連携についてお話ししたいと思います。日本の糖尿病患者の数は年々増加しております。厚生労働省の統計資料によれば、私が当院に赴任した平成9年には推計690万人でしたが10年後の平成19年には890万人となり、40歳以上の有病率は男性で19.4%、女性で19.2%となっております。春日市の人口は平成23年4月の時点で307,718人、40歳以上の人口が163,218人ですので、春日市内には恐らく2万人以上の糖尿病患者の方がいることとなります。

地域の基幹病院として

新年度に当たって、当院の現状と今後の展望についてご紹介申し上げます。当院は平成22年に災害拠点病院の指定を受け、東日本大震災においては救急チームを派遣しました。今年は災害派遣医療チーム（DMAT）の指定も受け、西災ともに大災害時の基幹病院となります。災害があってもは大変ですが、不測の事態にも対応できるべく準備を行っています。



院長 渡邊 有三

日常診療にひそむ“うつ”



メンタルヘルス科 関谷 隆史

地域医療支援病院指定を受けて

当院は愛知県東部北部医療圏（春日市、小牧市、犬山市、江南市、岩倉市、大口町、扶桑町が含まれます）において初めての地域医療支援病院として、愛知県から指定されました。職員一同大変喜びがましいことと感んでいます。



院長 渡邊 有三

歯科口腔外科
の取り組み



歯科口腔外科部長 丹下 和久

整形外科の紹介

“年々増加する運動器疾患”
～当院整形外科の現状～



副院長 種田 周一

外科近況について



外科部長 山口 健三

新たな放射線治療装置の導入について

皆様には日頃から当院の診療業務に関してさまざまなご質問やご意見を頂戴し、誠にありがとうございます。皆様のご協力を頂戴しながら、少しでも満足して頂けるよう、今後も職員一同努力を続けていく所存です。これからも皆様のご協力にご支度をよろしくお願いいたします。



春日市民病院 院長 渡邊 有三

救急部が移設、拡充しました！



救急部長（脳神経外科部長） 奥山 遼人

中日新聞「リンクト」 LINKED

中日新聞「医療の現場とつながるPROJECTリンクト」に春日井市民病院が掲載されました。



平成25年4月発行



平成25年11月発行



平成26年2月発行

平成25年度市民病院フォトギャラリー



病棟のこいのぼり



↑防災訓練の様子↓



病院西側のさくら



こいのぼりと遊ぶ子供たち



調整池のカルガモ



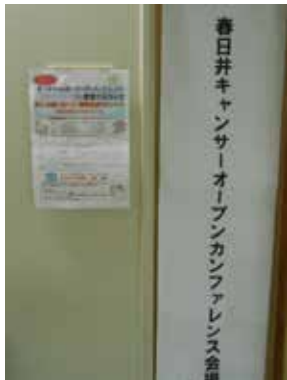
春日井納涼祭りの花火



正面玄関
クリスマスツリー



オカリナコンサート



毎月開催のキャン
サーオープン
カンファレンス



小児病棟クリスマス会



11月14日は世界糖尿病デーです。
"Unite for Diabetes"というキャッチフレーズのもと
全世界で糖尿病抑制に向けたイベントが開催され
ます。当院でもこの考え方に賛同し、数地区内各所
を青くします。
ブルーライトアップ
2013年11月1日(金)-15日(金) 日没-21:00



世界糖尿病デーのブルーサークル活動



神経内科病棟
クリスマス会

研究実績

著 書

腎不全を生きる DIALYSIS AND TRANSPLANT:
VOL. 47 18~24, 2013

透析室のスタッフから患者さんへの提言(30)

1. 「定期検診受診をお勧めします」

—手遅れにならないように—

春日井市民病院 院長

渡邊 有三

新・私が決める尊厳死 「不治かつ末期」の具体的提案:
109~127, 2013

腎不全

春日井市民病院 院長

渡邊 有三

新しい診断と治療のABC11／腎1 CKD（慢性腎臓
病）慢性腎不全：改訂第2版 253~262

第5章 ガイドライン

透析療法のガイドライン

春日井市民病院 院長

渡邊 有三

Nephrology Frontier 増刊号 シナカルセトのevidence
と新展開 —5th Anniversary— : 26~29, 2013

二次性副甲状腺機能亢進症における
新しいシナカルセト治療アルゴリズムの評価
(OPTIMA Study)

春日井市民病院 院長

渡邊 有三

インフォームドコンセントのための図説シリーズ
透析療法：82~87, 2013

9. 主な合併症

④糖尿病患者における合併症

春日井市民病院 院長

渡邊 有三

腎と透析：Vol. 75 No. 3410~416, 2013

特集・腎性貧血—概念の進歩と治療への期待
医療経済とESA使用のあり方

春日井市民病院 院長

渡邊 有三

Journal of Invasive cardiology :
Vol. 25 No. 8 2013. 8

Stent-Assisted Coil Embolization of Coronary Artery Aneurysm

Akihiro Terasawa, MD, Tuyoshi Yokoi, MD, Keita Kondo, MD

ABSTRACT: Coronary artery aneurysms are uncommon diseases with potential complications including rupture and ischemia from embolic events or thrombosis. No consensus has been established regarding the optimal therapy for coronary artery aneurysms. Percutaneous catheter-based treatments using membrane-covered stents and coil embolization have been described. However, only few reports of stent-assisted coil embolization for coronary artery aneurysms have been published to date. Therefore, we report a case of coronary artery aneurysm successfully treated with stent-assisted coil embolization.

日本透析医学会雑誌 : 45 (12) : 1085~1106, 2012

第57回日本透析医学会 学会委員会企画
コンセンサスカンファレンスより
『慢性血液透析療法の導入と終末期患者
に対する見合わせに関する提言 (案)』
「慢性血液透析療法の非導入／継続
中止 (見合わせ)」に関する
血液透析療法ガイドラインワーキング
グループからの提言 (案) 2012を
策定することに至った経緯について

春日井市民病院 院長
渡邊 有三

平方 秀樹
(透析導入・非導入・中止 (見合わせ) に関する
グループ長、日本透析医学会学術委員会委員長)

はじめに

日本透析医学会ではいくつかの診療ガイドラインを
発表してきました。一方、わが国の慢性透析療法患者
の90%以上で施行されている慢性血液透析療法のガイ
ドラインは未だ発表しておりません。治療方法も多岐
にわたり、複雑な問題が山積していたからです。また、
透析導入時期や透析処方についても、さまざまな見解
があることも影響していたかもしれません。しかし、
わが国の血液透析療法が世界で最も良好な治療成績を
あげていることは周知の事実であり、わが国の基本的
なガイドラインを提示すべきという考えが醸成され、
平成22年に慢性血液透析療法ガイドライン委員会が発
足しました。

発足時の委員会において、透析導入基準や透析処方
のガイドラインを作成するワーキンググループが組織
されました。しかし、その討議の中で、臨床の現場
でしばしば遭遇する病態である、体外循環としての透
析療法が実施困難な患者、透析療法を実施すること
でかえって生命予後を悪化させる懸念がある患者、慢性
透析療法を継続してきたけれども多彩かつ重大な合併
症を併発し、透析療法の継続が困難な患者などが増え
続けている現状を看過できないという意見がありまし
た。治療困難者への対応についての症例報告などは
散見するものの、学会としてこの問題を検討したことは
未だなく、慢性血液透析療法ガイドラインを策定す
るにあたって、これらの終末期患者への対応を示すべ
きではないかという点で委員会内の意見が一致しまし
た。このような経緯で、慢性血液透析療法ガイドライ
ンは、透析導入基準に関するガイドライン、透析処方
ガイドライン、そして、透析非導入と継続中止に関す
る提言という三部で構成することに決定され、それぞ
れのワーキンググループで討議が重ねられています。

非導入と継続中止に関する提言グループでは、委員
会内で行われている議論自体が時期尚早ではないか、
適切か、用語は適切かなどについて、自問自答を繰り
返しながら検討を進めております。第56回日本透析医
学会学術集会では、委員会内で討議した基本原則・用
語の適切性、この提言を検討することの是非について
討論し、アンケート調査結果を実施しました。その
結果、「議論すべきである」「学会として何らかの指針
を提示してほしい」という意見が圧倒的多数でありま
した。会員諸兄の強い支持を頂戴し、委員会内で継続
討議してまいり、ようやく提言 (案) について、委員
会内での基本的合意が得られましたので、第57回日本

透析医学会学術集会の委員会報告の場で、アンケート調査結果ならびに提言（案）をお示するとともに、日本尊厳死協会の井形昭弘先生と当学会の顧問弁護士である小川義龍先生にも参加していただき、コンセンサスカンファレンスを開催しました。当委員会としては、提言（案）を文章で会員諸兄に提示し、会員のみならず、この文章に接した方々からのご意見を広く頂戴したいと思います。

日本透析医会雑誌：Vol. 27 No. 3 513~518 2012

導入調査研究補助事業に対する報告書 —2008年から2011年の調査をまとめて—

春日井市民病院 院長

渡邊 有三

両角 國男（名古屋第二赤十字病院）

吉田 篤博（名古屋市立大学腎臓内科）

佐藤 和一（名古屋大学医学部腎臓内科）

富田 亮（藤田保健衛生大学腎臓内科）

横井 隆（愛知県医師会）

要 旨

血液透析患者の高齢化ははなはだしく、基礎疾患も慢性糸球体腎炎から糖尿病性腎症へと変わった。透析療法基準に関しては、1992年に三村・川口班から報告されたものがわが国では頻用されてきたが、時代の流れとともに一致しない点も多くなってきている。その背景には、透析治療自体が社会復帰を目指す治療から救命・延命治療へと変容してきたことが大きいと感じられる。愛知県では自立支援医療審査会を定期的に開催しており、その結果を基に、現時点での問題点ならびに今後の展望について報告する。

小児アレルギー学会誌：27 (2) 2013. 6

食物経口負荷試験の結果に基づく アレルギー食品摂取指導（第1報）

春日井市民病院 小児科

小林 貴江

小児アレルギー学会誌：27 (5) 2013. 12

鶏卵負荷試験陽性者に対する 除去解除を目指した食事指導（第2報）

春日井市民病院 小児科

小林 貴江

アレルギーの臨床：34 (3) 2014

食物経口負荷試験陽性者に対する 摂取指導と経過

春日井市民病院 小児科

小林 貴江

愛知学院大学歯学会誌：第51巻 第2号（2013年6月）

認知症を有する口腔癌患者に対する 動注化学療法を用いた治療経験

春日井市民病院 口腔外科

中島 克仁

丹下 和久 北島 正一郎 中山 英典

蟹江 一泰

Experience of Superselective Intra-Arterial Chemotherapy for Oral Cancer Patients with Dementia

KATSUHITO NAKASHIMA, KAZUHISA TANGE,
SHOICHIRO KITAJIMA, HIDENORI NAKAYAMA
and KAZUYASU KANIE

Department of Oral and Maxillofacial Surgery,
Kasugai Municipal Hospital

(Chief: Dr. Kazuhisa Tange)

Oral cancer treatment is often difficult in patients with dementia. We reported our experience with intra-arterial chemotherapy for oral cancer patients suffering from dementia. A reservoir system with a subcutaneously implanted port was placed in two oral cancer patients with dementia. The use of the port ensured quick reconnection, even if the catheter was removed by the patient, thereby

enabling continuation of treatment. These findings suggest that intra-arterial chemotherapy may be a therapeutic option for oral cancer patients suffering from dementia.

愛知学院大学歯学会誌:第51巻 第4号 (2013年12月)

超選択的動注化学療法における カテーテル先端の脱落が生じた3症例

春日井市民病院 口腔外科

北島 正一朗¹⁾

丹下 和久¹⁾ 中島 克仁¹⁾ 脇田 壮¹⁾

中山 英典¹⁾ 蟹江 一泰¹⁾ 水野 頌也¹⁾

福田 幸太²⁾

Case Report: Three Incident Cases of Dislocation of the Catheter Tip for Superselective Arterial Infusion Chemotherapy

SHOICIRO KITAJIMA, KAZUHISA TANGE,
KATSUHITO NAKASHIMA, TAKESHI WAKITA,
HIDENORI NAKAYAMA, KAZUYASU KANIE,
SHOYA MIZUNO and KOTA FUKUTA²⁾

¹⁾Department of Oral and Maxillofacial Surgery,
Kasugai Munisipal Hospital

(Chief: Dr. Kazuhisa Tange)

²⁾Department of Oral and maxillofacial Surgery,
School of Dentistry, Aichi Gakuin University

(Chief: Prof. Kenichi Kurita)

Superselective arterial infusion chemotherapy is recognized as a treatment protocol for oral cancer, but it has also been shown that there are problems with fluoroscopically guided catheter placement and manipulation. In particular, the dislocation of the catheter tip from target artery can not only spoil treatment but can also be harmful to patient health as the anticancer drug can enter the intenal carotid artery.

We prevent the dissipation of anticancer medication in the unrelated region of tumor and the dislocation of the catheter tip from target artery by inserting the catheter as deeply as possible into

the target artery. However, in deeply inserting a catheter we sometimes encounter difficulties, with which we must cope.

We show three cases of dislocation of the catheter tip from the target artery postoperatively, which suggest that the catheter had not been inserted deeply enough. We suggest that the taking of radiographs the day after surgery can be useful for identifying such cases.

医療と検査機器・試薬:第36巻 第2号 (2013年4月)

ネットワークを利用した血糖装置と 血液ガス分析装置の精度管理手法

春日井市民病院 医療情報センター

臨床検査技術室

後藤 慎一

春日井市民病院 臨床検査技術室

堀田 祐賀子

はじめに

近年、病院情報システムの導入が進みベッドサイドのPOC対応装置で測定された検査データもオンライン接続され、電子カルテ等の病院情報システムで閲覧が可能となりつつある。ベッドサイドで使用されるPOC対応装置は、不特定の医師や看護師により測定が行われるため、POC対応装置から得られる検査データの信頼性を高めるためには、責任ある部署が装置管理や精度管理を行わなければならない。しかし山崎家春の報告では、検査室以外の場所に設置したPOC対応装置に対して精度管理を実施している割合は約50%程度で、実施していない理由として、実施する人がいない・理解や協力が得られない、必要性を感じていない、方法が良くわからないなどが報告されていた。著者らの経験では、装置導入に際して臨床検査技師が関わらず医師主導で導入された装置は、精度管理が置き去りにされているように感じている。これらのことより、POC対応装置導入にあたっては、装置管理や精度管理の運用方法を決めておく必要があると思われる。特に精度管理については「精度管理運用のポイント」(表1)に示すように、実施者、間隔、記録方法、精度管理評価者などを明確に決めておく必要がある。

表1 精度管理運用のポイント

誰が いつ（どれくらいの間隔） どのように記録 精度管理結果の評価者

ここでは、当施設のPOCコーディネータ（POCC）や臨床検査技師が、院内で医師や看護師が使用するPOC対応装置の精度管理にどのように関わっているかを紹介するとともに、ネットワークを利用した血糖装置と、血液ガス分析装置の精度管理方法について述べる。

月刊新医療：No. 464 8（2013年8月）

院外画像閲覧システム導入で 期待される医療安全の向上

春日井市民病院 医療情報センター
山添 智
春日井市民病院 院長
渡邊 有三

Summary

Improvement of medical safety expected by the introduction of image viewing system at out-of-hospital

Kasugai Municipal hospital started an out-of-hospital image viewing system during an introduction of electronic medical records system. This every day and 24 hours working system contributes to an accurate clinical diagnostic capacity and to an improvement of medical safety in emergency medicine by appropriate suggestions by specialists evaluating images at out-of-hospital.

臨床栄養：vol. 123 No. 7

春日井市民病院「体験型栄養教室」

春日井市民病院 栄養管理室
伊藤 若菜

概要

当院は、愛知県にある診療科22科、病床数556床の市民病院です。栄養管理室は、病院職員5名と委託業者40名が所属しています。

2009年7月に開設された糖尿病センターでは、医師を中心としたスタッフ（看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、臨床心理士管理栄養士）が、精原病療養指導に携わっており、2012年度からは糖尿病透析予防指導にも携わっています。

指導の場では、「味がわからない」「想像ができない」といった意見を聞くことがあります。こういった意見から、外来でも、病院食を目で量を見て、食べて味をみるができる体験型栄養教室を企画しました。

体験型栄養教室は糖尿食体験栄養教室・腎臓食体験栄養教室をそれぞれ月1回開催し、食事は当日の病院食を基本に、果物・デザート・試食などを加えて提供しています。食事代は教室で委託業者へ支払い、集団栄養食事指導料は病院会計窓口での支払いとしています。参加人数と指示エネルギー等は二診療日前までに、病院栄養士が委託業者に伝え当日の食事準備を依頼します。

参加者は、教室開催日の12時頃から食事を食べながら、管理栄養士の話を聞きます。当日の資料、食べている食事の内容、調理の工夫点を説明したり、家庭での調理のコツについての説明を行います。実際に食事を食べながら、その食事の量や味について話を聞くことができるのが、体験型栄養教室のポイントです。

日本透析医学会雑誌：46 (7) 587~632, 2013

維持血液透析ガイドライン：血液透析処方
JSDT “Guidelines for Maintenance
Hemodialysis : Hemodialysis Prescriptions”

春日井市民病院 院長

渡邊 有三

一般社団法人 日本透析医学会

「維持血液透析ガイドライン：血液透析処方」作成に
携わった委員リスト

日本透析医学会理事長

水口 潤 川島病院

学術委員会委員長 友 雅司 大分大学

ガイドライン作成小委員会委員長

政金生人 矢吹病院

維持血液透析療法ガイドライン作成ワーキンググループ長

渡邊有三 春日井市民病院

血液透析処方ガイドライン作成ワーキンググループ長

川西秀樹 土谷総合病院

ワーキンググループ委員

秋葉 隆 東京女子医科大学

伊丹儀友 日鋼記念病院

小松康宏 聖路加国際病院

鈴木一之 かわせみクリニック

武本佳昭 大阪市立大学

田部井薫 自治医科大学附属

さいたま医療センター

土田健司 川島病院

中井 滋 藤田保健衛生大学

服部元史 東京女子医科大学

峰島三千男 東京女子医科大学

山下明泰 法政大学

顧問

斎藤 明 湘南東部総合病院

内藤秀宗 内藤医学研究所

オブザーバー

前学術委員会委員長 平方秀樹 福岡赤十字病院

(敬称略)

日本透析医学会雑誌：46 (12) 1107~1155, 2013

維持血液透析ガイドライン：血液透析導入
JSDT “Guidelines for Maintenance
Hemodialysis : Hemodialysis Initiation”

春日井市民病院 院長

渡邊 有三

「維持血液透析ガイドライン：血液透析導入」作成に係わった委員

日本透析医学会前理事長 秋澤忠男 昭和大学

日本透析医学会理事長 水口 潤 川島病院

学術委員会委員長 友 雅司 大分大学

ガイドライン作成小委員会委員長

政金生人 矢吹病院

維持血液透析療法ガイドライン作成ワーキンググループ長

渡邊有三 春日井市民病院

血液透析導入・非導入・継続中止に関するグループ長

平方秀樹 福岡赤十字病院

血液透析導入ガイドラインタスクフォース長

山懸邦弘 筑波大学

血液透析導入ガイドラインタスクフォース

西 慎一 神戸大学

花房規男 東京大学

斎藤知栄 筑波大学

服部元史 東京女子医科大学

伊丹儀友 日鋼記念病院

小松康宏 聖路加国際病院

(顧問) 川口良人 神奈川県立汐見台病院

血液透析導入ガイドライン査読委員

鶴屋和彦 九州大学病院

椿原美治 大阪大学

鈴木一之 かわせみクリニック

酒井 謙 東邦大学

川西秀樹 土谷総合病院

稲熊大城 名古屋第二赤十字病院

平方秀樹 福岡赤十字病院

山本裕康 厚木市立病院

武本佳昭 大阪市立大学

森 典子 静岡県立総合病院

岡田一義 日本大学

幡谷浩史 東京都立小児総合医療センター

秋葉 隆 東京女子医科大学

井関邦敏 琉球大学

(敬称略)

国際学会

ISN World Congress of Nephrology 2013

平成25年6月1日 Hong Kong

**EFFICACY AND SAFETY OF
FLUOROSCOPIC MANIPULATION
USING ALPHA REPLACER
FOR PERITONEAL CATHETER
MALPOSITION**

春日井市民病院 内科

Yosuke Saka

12th International Facial Nerve Symposium

平成25年6月27日～7月3日 ボストン

**Retrospective analysis of facial nerve
decompression surgery**

春日井市民病院 耳鼻いんこう科

山野 耕嗣

全国学会

第86回 日本内分泌学会学術総会

平成25年4月26日～27日 宮城

**精神発達遅滞、特発性副甲状腺機能低下
症を伴った高度肥満2型糖尿病の1例**

春日井市民病院 内科

松田 淳一

第86回 日本内分泌学会学術総会

平成25年4月26日～27日 宮城

**酢酸リュープロレリン投与後に
下垂体卒中を発症した前立腺癌の1例**

春日井市民病院 内科

岡田 由紀子

第56回 日本腎臓学会学術総会

平成25年5月10日～12日 東京

**透析導入時の貧血状態に関与する因子の検討
～ AICOPP研究～**

春日井市民病院 内科

唐澤 宗穂

第56回 日本腎臓学会学術総会

平成25年5月10日～12日 東京

ESA反応不良群では貧血改善と共にRDWが上昇する

春日井市民病院 内科

成瀬 友彦

第58回 日本透析医学会学術集会・総会

平成25年6月21日～23日 福岡

**腹膜透析患者における亜鉛濃度と
タンパク摂取量の検討**

春日井市民病院 内科

坂 洋祐

第58回 日本透析医学会学術集会・総会
平成25年6月21日～23日 福岡

血液透析患者における透析導入後の
残腎機能についての臨床的検討

春日井市民病院 内科
古林 陽一

第39回 日本脳卒中学会総会
平成26年3月13日～14日 大阪

脳梗塞t-PA静脈注療法：初診時の意識
レベルと頭部CTからみた検討

春日井市民病院 神経内科
數田 知之

第43回 日本腎臓学会西部学術大会
平成25年10月11日～12日 愛媛

大腸菌感染後に発症した
急性間質性腎炎の2例

春日井市民病院 内科
横江 優貴

第39回 日本脳卒中学会総会
平成26年3月13日～14日 大阪

脳梗塞t-PA静脈注療法における
発病から治療までの所要時間の検討

春日井市民病院 神経内科
鳥居 良太

第23回 臨床内分泌代謝Update in Nagoya
平成26年1月25日 名古屋

当院でのGLP-1作動薬導入例の
臨床像について

春日井市民病院 内科
松田 淳一

第10回 日本消化管学会総会学術集会
平成26年2月13日～15日 福島

診断に苦慮した退縮性腸間膜炎の1例

春日井市民病院 消化器科
奥田 悠介

第58回 日本透析医学会学術集会・総会
平成25年6月20日～23日 福岡

週1回静注ビタミンD製剤
±シナカルセトにおける
CKD-MBD治療の検討

春日井市民病院 内科
押谷 創

第10回 日本消化管学会総会学術集会
平成26年2月13日～15日 福島

早期大腸癌深達度診断における
拡大内視鏡と超音波内視鏡の
前向き比較試験

春日井市民病院 消化器科
平田 慶和

第54回 日本神経学会学術大会
平成25年5月31日 東京

脳梗塞t-PA静脈注療法：
初診時の意識レベルからみた検討

春日井市民病院 神経内科
野崎 康伸

第61回 日本心臓病学会学術集会
平成25年9月19日～22日 熊本

院外心原性心配停止例に対し
低体温療法を行った症例の神経学的
結果に影響を与える因子について

春日井市民病院 循環器科
近藤 圭太

第116回 日本小児科学会学術集会
平成25年4月19日～21日 広島

低カルシウム血症を伴う難治性痙攣で
発症した22q.11.2欠失症候群の1例

春日井市民病院 小児科
星野 伸

第113回 日本外科学会定期学術集会
平成25年4月11日～13日 福岡

エゼチミブによるウサギ自家静脈
グラフト内膜肥厚抑制効果

春日井市民病院 外科
前川 卓史

第45回 日本小児感染症学会
平成25年10月26日～27日 北海道

プロカルシトニン陰性であるが
血液培養で敗血症と診断された6例

春日井市民病院 小児科
星野 伸

第41回 日本血管外科学会学術総会
平成25年5月30日～31日 大阪

EVARにおけるデバイス間での
type II エンドリークの特性について

春日井市民病院 外科
井原 努

第113回 日本外科学会定期学術集会
平成25年4月11日～13日 福岡

上腸間膜動脈血栓塞栓症に対する
血管内治療の有用性

春日井市民病院 外科
秋田 直宏

第25回 日本肝胆膵外科学会・学術集会
平成25年6月11日～14日 栃木

腹腔鏡下胆嚢摘出術後の良性胆嚢狭窄
による肝内結石症の一例
—当科での良性胆道狭窄の治療法—

春日井市民病院 外科
林 友樹

第113回 日本外科学会定期学術集会
平成25年4月11日～13日 福岡

胆道手術後の良性胆管狭窄の治療

春日井市民病院 外科
山口 竜三

第25回 日本肝胆膵外科学会・学術集会
平成25年6月12日～14日 栃木

当科におけるHauging法による肝葉切除

春日井市民病院 外科
山口 竜三

第113回 日本外科学会定期学術集会
平成25年4月11日～13日 福岡

高度屈曲ネック症例に対する
EVARの中期成績

春日井市民病院 外科
井原 努

第25回 日本肝胆膵外科学会・学術集会
平成25年6月12日～14日 栃木

門脈腫瘍栓を伴った
胃癌膵転移の1切除例

春日井市民病院 外科
渡邊 真哉

第25回 日本肝胆膵外科学会・学術集会
平成25年6月13日～14日 栃 木

慢性膵炎の手術症例の検討

春日井市民病院 外科
中橋 剛一

第11回 日本臨床腫瘍学会学術集会
平成25年8月28日～31日 宮 城

高齢者乳癌症例の検討

春日井市民病院 外科
古田 美保

第21回 日本乳癌学会学術総会・第2回乳房再建用
エキスパンダー／インプラント講習会
平成25年6月27日～29日 静 岡

中心性乳管内乳頭腫生検後に 乳癌を発症した2例の検討

春日井市民病院 外科
古田 美保

第49回 日本胆道学会学術集会
平成25年9月18日～20日 千 葉

亜区域性に萎縮し、肝表面から多発 腫瘍様に観察されたB3原発IPNBの1例

春日井市民病院 外科
井田 英臣

第68回 日本消化器外科学会総会
平成25年7月16日～19日 宮 崎

悪性腫瘍の再発による消化管閉塞に 対する緩和的外科手術症例の検討

春日井市民病院 外科
笹本 彰紀

第49回 日本胆道学会学術集会
平成25年9月18日～20日 千 葉

肝サルコイドーシスを伴った 肝内胆管癌の1切除例

春日井市民病院 外科
伊藤 哲

第68回 日本消化器外科学会総会
平成25年7月16日～19日 宮 崎

StagⅣ大腸癌手術例の治療成績と 長期生存に関与する因子の検討

春日井市民病院 外科
中橋 剛一

第49回 日本胆道学会学術集会
平成25年9月18日～20日 千 葉

肝門部胆管癌との鑑別が困難であった 良性胆管狭窄4切除例の検討

春日井市民病院 外科
山口 竜三

第68回 日本消化器外科学会総会
平成25年7月16日～19日 宮 崎

当科における簡易な膵空腸2層吻合

春日井市民病院 外科
山口 竜三

第51回 日本癌治療学会学術集会
平成25年10月24日～26日 京 都

当院における進行・再発乳がん に対するフルベストラント治療経験

春日井市民病院 外科
古田 美保

第14回 日本クリニカルパス学会学術集会
平成25年10月31日～11月2日 岩 手

周術期リハビリテーション
クリニカルパス作成と運用

春日井市民病院 外科
會津 恵司

第75回 日本臨床外科学会総会
平成25年11月21日 名古屋

腎結腸瘻を形成した
黄色肉芽腫性腎盂腎炎の1例

春日井市民病院 外科
山本 友輝

第75回 日本臨床外科学会総会
平成25年11月21日 名古屋

StagⅣ大腸癌手術例の治療成績と
予後因子の検討

春日井市民病院 外科
中橋 剛一

第39回 日本骨折治療学会
平成25年6月27日～29日 福 岡

術後に遠位骨片が掌側ロッキング
プレートを乗り越えて転移した
橈骨遠位端骨折の2症例

春日井市民病院 整形外科
山崎 真

第26回 日本内視鏡外科学会総会
平成25年11月27日～30日 福 岡

MRIによる腹腔鏡下胆嚢摘出時の
胆嚢床出血の予測

春日井市民病院 外科
伊藤 哲

第39回 日本骨折治療学会
平成25年6月27日～29日 福 岡

小指中手指節（MP）関節掌側脱臼の1例

春日井市民病院 整形外科
鈴木 浩之

第26回 日本内視鏡外科学会総会
平成25年11月27日～30日 福 岡

Child Pugh分類Bの肝癌に対する
腹腔鏡下肝切除

春日井市民病院 外科
山口 竜三

第38回 日本足の外科学会
平成25年10月30日～11月1日 宮 城

趾節間外反母趾に対して
矯正骨切り術を行った2例

春日井市民病院 整形外科
山田 宏毅

第50回 日本腹部救急医学会総会
平成26年3月5日～7日 東 京

Bevacizumab併用化学療法中に
重篤な消化管合併症をきたした1例

春日井市民病院 外科
田口 瑠美子

第20回 救急整形外傷シンポジウム
平成26年2月27日～3月2日 沖 縄

上腕骨近位端骨折後に
腋窩動脈仮性動脈瘤をきたした1例

春日井市民病院 整形外科
山田 宏毅

第20回 救急整形外傷シンポジウム

平成26年2月27日～3月2日 沖 縄

基礎疾患を伴う高齢者の下腿開放性骨折

春日井市民病院 整形外科
鈴木 浩之

第117回 日本眼科学会総会

平成25年4月4日～6日 東 京

後天内斜視に対する内直筋後転術の効果

春日井市民病院 眼科
小南 梓

第15回 日本褥瘡学会学術集会

平成25年7月19日～20日 兵 庫

リウマチ性多発筋痛症に合併した
褥瘡感染の1例

春日井市民病院 形成外科
菱田 雅之

第36回 日本顔面神経研究会

平成25年4月24日～27日 沖 縄

Bell麻痺として治療が行われていた
耳下腺悪性腫瘍の3例

春日井市民病院 耳鼻いんこう科
山野 耕嗣

第19回 日本形成外科手術手技学会

平成26年2月21日～22日 名古屋

超弾性ワイヤー法とフェノール法を
併用した高度巻き爪の治療

春日井市民病院 形成外科
菱田 雅之

第1回 日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総
会・学術講演会

平成25年9月6日～7日 大 分

甲状腺機能亢進症を伴った
急性化膿性甲状腺炎の1例

春日井市民病院 耳鼻いんこう科
南方 寿哉

第112回 日本皮膚科学会総会

平成25年6月14日～16日 神奈川

TNF α 阻害薬投薬中に全身性エリテマ
トーデスと皮膚筋炎様症状を生じた1例

春日井市民病院 皮膚科
秦 舞子

日本麻酔科学会60回学術集会

平成25年5月23日～25日 北海道

使用済みカリウム吸着除去血液
フィルタのカリウム除去性能回復実験

春日井市民病院 麻酔科
森田 麻己

公益社団法人日本産科婦人科学会第65回学術講演会

平成25年5月11日～12日 北海道

当院における再発卵巣癌にノギテカン
塩酸塩製剤（ハイカムチン）を
用いた症例に対する検討

春日井市民病院 産婦人科
玉内 学志

第34回 日本アフェレンス学会学術大会

平成25年11月2日～3日 長 野

中毒性表皮壊死（TEN）に対する
エバキュアを用いた血漿交換

春日井市民病院 麻酔科
高橋 利通

第67回 NPO法人日本口腔科学会学術集会
平成25年5月22日～24日 栃木

口腔癌に対する血流改変術を併用した
選択的動注化学療法による治療効果
—奏功例の転移リンパ節CT画像所見について—

春日井市民病院 歯科口腔外科
丹下 和久

第58回 (公社)日本口腔外科学会総会・学術大会
平成25年10月12日～13日 福岡

口腔癌に対する超選択的動注化学療法に
おける転移リンパ節のCT画像所見について

春日井市民病院 歯科口腔外科
中島 克仁

第37回 日本頭頸部癌学会、第4回教育セミナー
平成25年6月12日～14日 東京

口腔癌リンパ節転移症例に対する血流
改変術を併用した超選択的動注化学
療法におけるCT画像所見について

春日井市民病院 歯科口腔外科
丹下 和久

第56回 日本糖尿病学会年次学術集会
平成25年5月16日～18日 熊本

当院におけるシタグリプチンの
長期使用における臨床効果について

春日井市民病院 薬剤部
服部 芳明

第58回 (公社)日本口腔外科学会総会・学術大会
平成25年10月10日～13日 福岡

口腔癌に対する選択的動注化学療法に
おける転移リンパ節の
CT画像所見について

春日井市民病院 歯科口腔外科
丹下 和久

第18回 日本緩和医療学会学術大会
平成25年6月21日～22日 神奈川

オキシコドン錠使用者外来患者の入院
要因からみた疼痛管理の後方視的検討

春日井市民病院 薬剤部
前田 剛司

第58回 (公社)日本口腔外科学会総会・学術大会
平成25年10月10日～13日 福岡

広範囲の口腔癌に対して、血流改善術
を併用した選択的動注化学療法が
有効であった1例

春日井市民病院 歯科口腔外科
脇田 壮

第21回 日本乳癌学会学術総会
平成25年6月27日～29日 静岡

乳癌におけるベバシズマブ使用による
血圧と尿蛋白の推移について

春日井市民病院 薬剤部
前田 剛司

医療薬学フォーラム2013
平成25年7月19日～21日 石川

ハイリスク持参薬を安全に使用する
ための院内管理体制構築 —第1報—
「メトトレキサート管理の盲点を無くす」

春日井市民病院 薬剤部
石井 秀明

医療薬学フォーラム2013

平成25年7月19日～21日 石川

RNAKL阻害剤デノスマブにおける
低カルシウム血症の発現状況と適正使用について

春日井市民病院 薬剤部

鈴木 敦詞

第11回 日本臨床腫瘍学会学術集会

平成25年8月28日～31日 宮城

FOLFIRI療法における
UGT1A1遺伝子多型による
イリノテカンの投与量と血液毒性

春日井市民病院 薬剤部

前田 剛司

医療薬学フォーラム2013

平成25年7月19日～21日 石川

春日井市民病院における
脂肪乳剤投与速度の現状調査

春日井市民病院 薬剤部

田中 伸明

第7回 日本緩和医療薬学会年会

平成25年9月15日～16日 千葉

オキコドンの経口剤から注射剤への
切り替えと痛みに関する検討

春日井市民病院 薬剤部

前田 剛司

医療薬学フォーラム2013

平成25年7月19日～21日 石川

外来通院注射注射抗がん剤投与患者に
おける入院要因の後方視的検討

春日井市民病院 薬剤部

前田 剛司

第23回 日本医療薬学会年会

平成25年9月20日～22日 宮城

他剤からフェブキシソスタットになった
患者の尿酸値の変化

春日井市民病院 薬剤部

大岩 拓馬

医療薬学フォーラム2013

平成25年7月20日～21日 石川

「副作用が疑われる症例報告に関する
データセット」を利用した施設内の
医薬品リスク管理計画への活用

春日井市民病院 薬剤部

坂田 洋

第23回 日本医療薬学会年会

平成25年9月20日～22日 宮城

がん化学療法に伴うB型肝炎ウイルス
検査の実施状況調査
—薬剤部からの情報提供前後における
検査実施動向について—

春日井市民病院 薬剤部

鈴木 敦詞

第16回 日本医薬品情報学会総会・学術大会

平成25年8月10日～11日 名古屋

春日井市民病院における健康食品・
サプリメント摂取状況の実態調査

春日井市民病院 薬剤部

杉田 亜沙美

第23回 日本医療薬学会年会

平成25年9月20日～22日 宮 城

ティーエヌワンの腎障害に応じた
投与量の実態調査

春日井市民病院 薬剤部

鈴木 大吾

日本薬学会第134年会

平成26年3月27日～30日 熊 本

呼吸困難を有する死期がせまった
がん患者に対するステロイド投与の
効果に関する後方視的検討

春日井市民病院 薬剤部

前田 剛司

第23回 日本医療薬学会年会

平成25年9月21日～22日 宮 城

高齢者に対する初回化学療法の
注射抗がん剤の投与量について

春日井市民病院 薬剤部

前田 剛司

第56回 日本糖尿病学会年次学術集会

平成25年5月15日～18日 熊 本

2型糖尿病患者に対するDPP-4阻害薬
服用と脂質検査値の変化について

春日井市民病院 臨床検査技術室

後藤 慎一

第2回 日本くすりと糖尿病学会学術集会

平成25年11月23日～24日 東 京

春日井市民病院における糖尿病透析
予防指導管理料算定患者の
ARB処方状況調査について

春日井市民病院 薬剤部

田中 伸明

第62回 日本医学検査学会

平成25年5月17日～19日 香 川

愛知県臨床検査標準化協議会の歩み
—協議会設立10周年を迎えて—

春日井市民病院 臨床検査技術室

鈴木 博子

第2回 日本くすりと糖尿病学会学術集会

平成25年11月23日～24日 東 京

継続指導した療養指導を目的とした
保険薬局との連携とその業務量把握の
ためのアンケート実施について

春日井市民病院 薬剤部

服部 芳明

日本臨床検査自動化学会第45回大会

平成25年10月10日～12日 神奈川

イムノクロマト検査の全自動化とオンライン化
は業務の効率化にどれくらい貢献できるか？

春日井市民病院 臨床検査技術室

後藤 慎一

第60回 日本臨床検査医学会学術集会

平成25年11月2日 兵 庫

企画2：迅速感染症検査のTips&Tricks
—感染症検査装置の接続に求められる要件—

春日井市民病院 臨床検査技術室

後藤 慎一

第58回 日本透析医学会学術集会・総会
平成25年6月21日～23日 福岡

透析導入時の残腎機能推定方法と その過程に応じた透析療法の検討

春日井市民病院 臨床工学技術室
重松 恭一

第58回 日本透析医学会学術集会・総会
平成25年6月21日～23日 福岡

キンダリー透析剤4Eへ変更後の臨床評価

春日井市民病院 臨床工学技術室
中嶋 浩詞

第58回 日本透析医学会学術集会・総会
平成25年6月21日～23日 福岡

リスクチャートを用いた患者管理

春日井市民病院 臨床工学技術室
山中 里沙

第23回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会
平成25年10月10日～11日 東京

消化器外科周術期患者の活動状況の調査

春日井市民病院 リハビリテーション技術室
山下 裕

日本理学療法学会
平成25年5月30日～6月1日 神奈川

人工膝関節置換術後の 身体活動量の経時的変化

春日井市民病院 リハビリテーション技術室
中崎 亨

第56回 日本糖尿病学会年次学術集会
平成25年5月15日～18日 熊本

30万都市における 糖尿病災害対策への取り組み ～災害時拠点病院・地域医療機関・調剤薬局・ 行政による連携システム構築の試み～

春日井市民病院 看護局
谷口 美和子

第15回 日本医療マネジメント学会学術総会
平成25年6月13日～15日 岩手

院内外多職種で行うワークショップの効果

春日井市民病院 看護局
薬師寺 有華

第52回 全国自治体病院学会
平成25年10月17日～18日 京都

がん患者カウンセリングにおける 看護師の役割と今後の課題

春日井市民病院 看護局
森本 優子

第31回 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会
平成26年2月21日～22日 宮城

ストーマケアにおける訪問看護との連携 —かかりつけ医との連携においてケアに難渋した1例—

春日井市民病院 看護局
細野 美穂子

日本ヒューマンナーシング学会
平成25年10月26日 東京

足ツボによる睡眠の効果 —睡眠薬に頼らない睡眠ケアの一考察—

春日井市民病院 看護局
大島 京子

第44回 日本看護学会看護総合学術集会

平成25年9月12日～14日 大分

リンクナースとの協働による
新型インフルエンザ発生時の
アクションプラン作成

春日井市民病院 安全推進室
伴 信義

第15回 日本医療マネジメント学会学術総会

平成25年6月13日～15日 岩手

多職種退院支援カンファレンス
による知識創造
—急性期病院における病棟看護師の変化—

春日井市民病院 医療連携室
白澤 恵

第52回 全国自治体病院学会

平成25年10月17日～18日 京都

急性期自治体病院における退院調整
実績からみる今後の患者の動向

春日井市民病院 医療連携室
田辺 圭子

地方学会

第87回 日本糖尿病学会中部地方会

平成25年10月6日 石川

慢性炎症性脱髄性多発根
ニューロパチーの合併を疑われた
緩徐進行1型糖尿病の1例

春日井市民病院 内科
高原 邦彦

第136回 日本神経学会東海・北陸地方会

平成25年6月29日 名古屋

頸髄から脊髓円錐に至る長大な横断性
脊髄炎を呈したSLEの1例

春日井市民病院 神経内科
中藪 幹也

第138回 日本神経学会東海・北陸地方会

平成26年3月1日 名古屋

延髄半側症候群を呈した脳梗塞の2例

春日井市民病院 神経内科
數田 知之

第220回 日本内科学会東海地方会

平成25年6月9日 名古屋

脳静脈血栓症の再発を認めた1例

春日井市民病院 神経内科
野崎 康伸

第56回 日本消化器内視鏡学会東海支部例会

平成25年12月14日 名古屋

当院における大腸憩室出血の現状と
造影CTの有用性の検討

春日井市民病院 消化器科
尾関 貴紀

第56回 日本消化器内視鏡学会東海支部例会

平成25年12月14日 名古屋

胆管挿入困難例に対する膵管ガイド
ワイヤー下に通常型パピロトミー
ナイフを用いた乳頭precuttingの試み

春日井市民病院 消化器科

池内 寛和

第56回 日本消化器内視鏡学会東海支部例会

平成25年12月14日 名古屋

バルーン閉塞下の内視鏡的静脈瘤硬化
療法結紮術併用療法（EISL）が有効
であった十二指腸静脈瘤破裂の1例

春日井市民病院 消化器科

管野 琢也

日本消化器病学会東海地支部会第118回例会

平成25年6月15日 静岡

盲腸軸捻転の3例

春日井市民病院 消化器科

小島 悠揮

日本循環器学会第142回東海・第127回北陸合同地方会

平成25年11月9日～10日 石川

空手中に発症した心臓震盪の1例

春日井市民病院 循環器科

滝川 智信

日本消化器病学会東海地支部会第118回例会

平成25年6月15日 静岡

腹部造影CT検査、小腸ダブルバルーン
内視鏡により迅速に診断しえた
Meckel憩室出血の1例

春日井市民病院 消化器科

杉山 智哉

第141回 日本循環器学会東海地方会

平成25年6月22日 名古屋

肺動脈弁狭窄に対し、経皮的バルーン
肺動脈弁形成術（PTPV）を
施行した一例

春日井市民病院 循環器科

滝川 智信

日本消化器病学会東海地支部会第119回例会

平成25年12月7日 名古屋

診断と再燃においてステロイド・
ミニパルス療法が有用であった
自己免疫性膵炎の1例

春日井市民病院 消化器科

羽根田 賢一

日本心血管インターベンション治療学会 第29回東
海北陸地方会

平成25年5月18日 名古屋

PCI中にstent変形をきたした一例

春日井市民病院 循環器科

石田 久美子

第222回 日本内科学会東海地方会

平成26年2月23日 名古屋

初発が肺動脈炎の肺塞栓症による
突然死であった若年女性の1例

春日井市民病院 循環器科

隈井 大介

第258回 日本小児科学会東海地方会
平成25年5月19日 名古屋

当院で2012／2013シーズンに経験した
インフルエンザ脳症の4例

春日井市民病院 小児科
石黒 智紀

第286回 東海外科学会
平成25年10月20日 岐阜

術後3年無再発生存中の9mm
小腸がんの1例

春日井市民病院 外科
中橋 剛一

第49回 中部日本小児科学会
平成25年8月25日 三重

低身長 of 成長ホルモン補充療法中に思春期
発来 of 遅れと成長速度 of 再低下を認めた1例

春日井市民病院 小児科
石黒 智紀

第40回 愛知臨床外科学会
平成25年7月15日 名古屋

大量下血をきたした小腸動静脈奇形 of 1例

春日井市民病院 外科
内山田 修一

第259回 日本小児科学会東海地方会
平成25年10月6日 岐阜

卵巣奇形腫を契機に
ネフローゼ症候群を発症した1例

春日井市民病院 小児科
守矢 すみれ

第286回 東海外科学会
平成25年10月20日 岐阜

膝窩動脈瘤破裂 of 1例

春日井市民病院 外科
真宮 崇

第260回 日本小児科学会東海地方会
平成26年2月9日 三重

mRNAの解析により診断し得たX染色体
優性低リン血症性くる病 of 一家系

春日井市民病院 小児科
宮地 悠江

第286回 東海外科学会
平成25年10月20日 岐阜

脾動脈瘤のため部分的脾動脈血栓術
(PSE) が困難であり、腹腔鏡下に
脾動脈瘤とともに切除した脾腫 of 1例

春日井市民病院 外科
山本 泰資

第40回 愛知臨床外科学会
平成25年7月15日 名古屋

十二指腸乳頭原発
neuroendocrine tumor of 1例

春日井市民病院 外科
伊藤 哲

第64回 日本皮膚科学会中部支部学術大会
平成25年11月2日～3日 名古屋

トリクロロエチレンにより
発症した過敏症症候群 of 1例

春日井市民病院 皮膚科
秦 舞子

第38回 (公社)日本口腔外科学会中部地方会

平成25年6月15日 名古屋

広範囲に及ぶ口腔癌に対して, 血流
改変術を併用した従来型の選択的
動注化学療法が有功であった1例

春日井市民病院 歯科口腔外科

蟹江 一泰

平成25年度 日臨技中部圏支部医学検査学会

平成25年11月23日~24日 三重

超音波シンポジウム3
~カラードプラの魅力を知ろう~ 腎動脈

春日井市民病院 臨床検査技術室

若林 弥生

第14回 愛知県医学検査学会

平成25年6月16日 刈谷

ラピッドコムによる血液ガス分析
システムの構築について

春日井市民病院 臨床検査技術室

鈴木 博子

放射線技師会愛知県支部定例会

平成25年10月12日 長久手

足関節撮影法について
~解剖から機能、ストレス撮影まで~

春日井市民病院 放射線技術室

日南 友希

第29回 東海北陸理学療法学会

平成25年11月9日~10日 名古屋

人工膝関節全置換術前患者の身体活動量
とその関連要因についての検討

春日井市民病院 リハビリテーション技術室

中崎 亨

地方研究会等

第5回 Interventional Endoscopy Conference

平成25年10月17日 名古屋

大腸憩室出血の治療戦略

春日井市民病院 消化器科

尾関 貴紀

第8回 消化器がん化学療法研究会

平成26年1月31日 名古屋

化学療法が奏功し長期生存を得ている
原発性十二指腸癌の1例

春日井市民病院 消化器科

望月 寿人

第8回 小牧春日井小児科懇話会

平成25年8月3日 春日井

食欲低下、活気不良で受診し、
心筋症・心筋炎が疑われた2例

春日井市民病院 小児科

前田 徹

第9回 小牧春日井小児科懇話会

平成26年2月22日 小牧

診断に難渋した腹痛の一例

春日井市民病院 小児科

木野村 依子

2013年名古屋大学形成外科同門会

平成25年6月22日 名古屋

陥入爪・巻き爪に対する
ワイヤー法の適応

春日井市民病院 形成外科

菱田 雅之

講 演

第58回 日本透析医学会学術集会

平成25年6月20日 福岡

透析導入と高齢化にかかわる諸問題
～多種合併症を有する糖尿病性腎不全例の
増加, 独居高齢者, 認知症への対応は～

渡邊 有三

春日井医師会学術講演会

平成25年6月8日 春日井

当院における心肺蘇生後患者に
対する低体温療法

近藤 圭太

第19回 春日井消化器病懇話会学術講演会

平成25年3月16日 春日井

アスピリンの剤形による
消化管出血発生リスクの検討
～ Buffered VS Enteric-coated ～

平田 慶和

第23回 春日井糖尿病研究会

平成25年11月9日 春日井

膵癌のリスクファクター
—生活習慣そして糖尿病

高田 博樹

第21回 春日井消化器病懇話会学術講演会

平成26年3月29日 春日井

当院における超音波内視鏡検査の現状

高田 博樹

熟年大学

平成25年12月5日 春日井

増え続ける「がん」治療と共に緩和ケア

笹本 彰紀

平成25年度 輸血研究班研修会

平成25年12月14日 名古屋

不規則性抗体検査の実際

神野 洋彰

平成25年度 第4回輸血研究班研修会

平成25年1月25日 静岡

当院の輸血室紹介します

神野 洋彰

地方独立行政法人 長野県立病院機構講演会

平成25年1月16日 長野

春日井市民病院における
医療情報データ活用事例報告
—産業医大で学んだこの1年の経過報告—

後藤 慎一

第10回 糖尿病チーム医療研究会学術講演会

平成25年7月20日 名古屋

その血糖値、信頼できるデータですか？

後藤 慎一

第13回 東尾張地域連携栄養カンファレンス

平成26年1月25日 春日井

医療従事者のための褥瘡講座

菱田 雅之

第14回 春日井透析セミナー

平成26年3月6日 春日井

透析患者によく診られる皮膚損傷・治療

菱田 雅之

愛知県立大学看護学部講義

平成25年5月10日 名古屋

春日井市民病院医療連携室の役割

—地域連携ステーション看護師・

退院調整看護師

白澤 恵

病院内地域連携室担当者勉強会

平成26年1月21日 名古屋

効果的な院内連携の進め方

白澤 恵

春日井透析セミナー

平成26年3月6日 春日井

春日井市民病院における
退院支援と退院調整の実際

落河 沙弓

研修会

医師合同勉強会（1）

平成25年5月7日

創処置の基本

春日井市民病院 形成外科

菱田 雅之

医師合同勉強会（2）

平成25年11月13日

診断に難渋した痙攣重積の一例

春日井市民病院 小児科

石黒 智紀

第3回 内科合同勉強会

平成25年5月15日

ヒアリ・ハット症例

胸痛の一例

春日井市民病院 循環器科

滝川 智信

脳梗塞疑いにてコンサルトを
受けた一例

春日井市民病院 神経内科

鳥居 良太

メイン

肝細胞癌について Part. 1

春日井市民病院 消化器科

池内 寛和

第4回 内科合同勉強会

平成25年6月5日

ヒアリ・ハット症例

心窩部痛の1例

春日井市民病院 消化器科

菅野 琢也

心電図勉強会

春日井市民病院 循環器科
石田 久美子

メイン

腎疾患とNaの深い関わり

春日井市民病院 内科
坂 洋祐

第5回 内科合同勉強会

平成25年 6月19日

ヒアリ・ハット症例

低カリウム血症の2例

春日井市民病院 内科
谷口 容平

嘔気で入院中に四肢脱力を 発症した1例

春日井市民病院 消化器科
池内 寛和

メイン

四肢脱力に呼吸不全を合併した1例

春日井市民病院 神経内科
松井 克至

第6回 内科合同勉強会

平成25年 7月3日

ヒアリ・ハット症例

意識障害で救急搬送された 87歳女性の1例

春日井市民病院 神経内科
數田 知之

肺炎を繰り返した1例

春日井市民病院 内科
古林 陽一

メイン

低体温療法について

春日井市民病院 循環器科
近藤 圭太

第7回 内科合同勉強会

平成25年 7月17日

ヒアリ・ハット症例

診断に迷う急性心筋梗塞の例

春日井市民病院 循環器科
横井 剛

意識障害と左半身麻痺で来院した1例

春日井市民病院 神経内科
遠藤 利洋

メイン

肝細胞癌について Part. 2

春日井市民病院 消化器科
池内 寛和

第8回 内科合同勉強会

平成25年 8月7日

ヒアリ・ハット症例

原因不明の吐血を繰り返した1例

春日井市民病院 消化器科
管野 琢也

メイン

不明熱の診断

春日井市民病院 内科
渡部 啓子

第9回 内科合同勉強会

平成25年 8月21日

ヒアリ・ハット症例
低ナトリウム血症について

春日井市民病院 内科
横江 優貴

メイン

繰り返す痙攣と頭痛を認めた
28歳男性の一例

春日井市民病院 神経内科
野崎 康伸

第13回 内科合同勉強会

平成25年10月16日

ヒアリ・ハット症例
ステロイド糖尿病で紹介された1例

春日井市民病院 内科
石川 貴大

メイン

糖尿病と延髄内側梗塞

春日井市民病院 神経内科
中藪 幹也

第11回 内科合同勉強会

平成25年 9月18日

ヒアリ・ハット症例
この心電図 正常？

春日井市民病院 循環器科
滝川 智信

メイン

胃壁の肥厚について

春日井市民病院 消化器科
奥田 悠介

第14回 内科合同勉強会

平成25年11月 6日

ヒアリ・ハット症例
右顔面の違和感で受診した
33歳 女性

春日井市民病院 神経内科
鳥居 良太

メイン

ペースメーカーについて

春日井市民病院 循環器科
北村 和久

第12回 内科合同勉強会

平成25年10月 2日

ヒアリ・ハット症例
食思不振の1例

春日井市民病院 消化器科
高田 博樹

メイン

腎性貧血治療のポイント

春日井市民病院 内科
成瀬 友彦

第15回 内科合同勉強会

平成25年11月20日

ヒアリ・ハット症例
心電図勉強会

春日井市民病院 循環器科
横井 剛

メイン

大腸憩室出血と腹部造影CT

春日井市民病院 消化器科
尾関 貴紀

第16回 内科合同勉強会

平成25年12月4日

ヒアリ・ハット症例
ステロイドミニパルスが診断と再燃に
有用であった自己免疫性膵炎の1例

春日井市民病院 消化器科
羽根田 賢一

メイン
高齢者の糖尿病

春日井市民病院 内科
岡田 由紀子

第17回 内科合同勉強会

平成25年12月18日

ヒアリ・ハット症例
Cushing症候群が疑われた1例

春日井市民病院 内科
山下 良子

メイン
左側頭部痛と左半身の痺れを主訴に
救急搬送された44歳男性

春日井市民病院 神経内科
野崎 康伸

第18回 内科合同勉強会

平成26年1月15日

ヒアリ・ハット症例
末梢性顔面神経麻痺

春日井市民病院 神経内科
鳥居 良太

メイン
心不全について

春日井市民病院 循環器科
近藤 圭太

第20回 内科合同勉強会

平成26年2月19日

ヒアリ・ハット症例
うつ病患者の食思不振

春日井市民病院 消化器科
奥田 悠介

メイン
多腺性自己免疫症候群3A型の1例

春日井市民病院 内科
松田 淳一

第21回 内科合同勉強会

平成26年3月5日

ヒアリ・ハット症例
不明熱で紹介された1例

春日井市民病院 内科
坂 洋祐

メイン
延髄半側症候群を呈した脳梗塞の2例

春日井市民病院 神経内科
數田 知之

第15回 クリニカルパス大会

平成26年1月28日

DPCデータを利用したクリニカルパス解析

春日井市民病院 医療情報センター
後藤 慎一

第15回 クリニカルパス大会

平成26年1月28日

肺炎パスの作成について

春日井市民病院 医療情報センター
山添 智

第15回 クリニカルパス大会

平成26年1月28日

薬剤師がかかわるクリニカルパス

春日井市民病院 薬剤科
服部 芳明

第15回 クリニカルパス大会

平成26年1月28日

理学療法士がかかわるクリニカルパス

春日井市民病院 リハビリテーション技術室
岡崎 誉

第15回 クリニカルパス大会

平成26年1月28日

第14回日本クリニカルパス学会
学術集会報告

春日井市民病院 外科
會津 恵司

平成25年度 医療安全研修会

平成25年5月31日

「ヒューマンエラーとその対策」
—医療システムの持つ問題点と対策—

春日井市民病院 安全推進室
自治医科大学医学部
メディカルシミュレーションセンター
センター長 医療安全学教授
河野 龍太郎

平成25年度 医療安全研修会

平成25年8月2日

職業感染防止対策
—聖職者の精神と労働者の現実—

医療関連感染予防対策委員会
弘前大学医学部附属病院 感染制御センター
センター長
萱場 広之

平成25年度 医療安全研修会

平成25年9月20日

感染症診断の原則とピットフォール

研修管理委員会 医療関連感染予防対策委員会
倉敷中央病院臨床検査科 感染制御室
上山 伸也

平成25年度 医療安全研修会

平成25年9月26日

ヒューマンエラーと
新しい医療安全マネジメント

春日井市民病院 安全推進室
立教大学現代心理学部心理学科 教授
芳賀 繁

平成25年度 輸血療法委員会研修会

平成25年10月30日

『院内輸血マニュアルについて』

春日井市民病院 臨床検査技術室
神野 洋彰

平成25年度 輸血療法委員会研修会

平成25年10月30日

『大量出血時における補充輸血療法』
血液凝固の観点から

愛知医科大学病院 輸血・細胞療法部

中山 享之

平成25年度 第1回看護実践報告会

平成25年10月18日

グッド・プラティクスに学ぶ その1

発表1

新入職者、異動者の不安軽減に向けた
サポート体制の紹介

東3

木村 元美 市川 仁一 伊佐治 知容

田垣 美紀子

発表2

グループ・ペア制を導入して
“半年間の経過報告”

西7

小島 礼子 小池 訓子

発表3

西6病棟・泌尿器科外来一元化の成果と課題
～継続看護の充実を目指して～

西6

喜多 富枝 佐藤 めぐみ

発表4

東6病棟と透析センターが一元化となって
～透析導入指導に焦点を当てて～

東6

山田 洋子 鈴木 美和子 杉平 貴子

水谷 友紀 住田 芳則

発表5

歯科衛生士と協働した口腔ケアラウンドの実
施とその成果

西3

河合 豊 岡山 佐都子

発表6

パーキンソン病患者に緩和的マッサージの
導入を試みて

西5

小山 和子 岩切 紅美

ナーシング・サポート室

鈴木 利恵

発表7

ストーマケア指導の見直し
～アンケートを実施して～

西4

水野 亜樹 深尾 夏代

平成25年度 第2回看護実践報告会

平成26年2月1日

グッド・プラティクスに学ぶ その2

発表1

小児虐待予防における看護師の役割
～いかに向き合い、いかにつなぐか～

西2

古川 かほり

救急部

加藤 みどり

発表2

当院手術部における術前・術後訪問看護
実施内容変更に伴う実施数の改善

中央手術部

小瀬木 彩香 児玉 康明 小林 友子

発表3

糖尿病患者の看護

～外来で行うフットケアから

糖尿病センター

竹森 江美子

発表4

院内助産施設・BFH取得に向けての取り組み

東2

富田 正子 岩谷 香

発表5

腎代替療法選択外来の充実をめざして
東6 腹膜透析チーム
中道 朝恵 奴賀 美保 高石 麻紀

発表6

患者の生活に寄り添う退院支援
東7
大島 真須美

発表7

退院支援を行う上での重要点
～退院後の自宅訪問を通して
医療連携室
薬師寺 有華

発表8

いわゆるロング日勤の時間外を削減する
ための取り組み
東4
大島 亜也奈 白石 典子 梅田 実里
恩田 秀樹

発表9

看護をつなぐ「平日日勤ペア体制」の導入
東7
村瀬 多美子

第6回 春日井市地域連携糖尿病研修会

平成25年7月7日

講演1：カーボカウントの基礎
講演2：体系的な血糖測定 (Structured testing)、血糖パターンの分析

東京衛生病院附属 教会通りクリニック
杉本 正毅

第7回 春日井市地域連携糖尿病研修会

平成26年1月25日

実践!! 糖尿病の運動療法
—自宅のできる運動を中心に—

医療法人 三仁会 あさひ病院
横地 正裕

平成25年度 地域連携研修会 (16回)

平成25年5月16日

地域包括支援センターの役割と活動

地域包括支援センター勝川 センター長
佐藤 智香子

平成25年度 地域連携研修会 (17回)

平成25年7月18日

ケアマネジャーの役割と活動

介護支援センター グレイスフル春日井
鶴田 典子

平成25年度 地域連携研修会 (18回)

平成25年9月19日

訪問看護の役割と活動

訪問看護ステーション太陽高蔵寺
訪問看護認定看護師
丹波 ちひろ

平成25年度 地域連携研修会 (19回)

平成25年11月21日

現在の社会福祉制度とその活用事例

MSW
上野 陽介

平成25年度 地域連携研修会 (20回)

平成26年1月16日

認知症患者の支援を考えよう

グループワーク

平成25年度 地域連携研修会 (21回)
平成26年3月13日

認知症患者の支援を考えよう

グループワーク

第9回 春日井キャンサーオープンカンファレンス
平成25年4月4日

乳がんについて

春日井市民病院 外科
化学療法センター 部長
古田 美保
春日井市民病院 放射線科 主査
大水 裕子
春日井市民病院 看護サポート室 主査
長谷川 弘子

第10回 春日井キャンサーオープンカンファレンス
平成25年5月9日

肝臓がん

春日井市民病院 消化器科 医長
池内 寛和
春日井市民病院 放射線科 技師
日南 友希
春日井市民病院 7階東病棟 看護師
寺平 知美 山田 菜央

第11回 春日井キャンサーオープンカンファレンス
平成25年6月6日

在宅医療 ～在宅での看取り～

小松原内科 医師
服部 祐子
訪問看護ステーション太陽・高蔵寺 看護師
丹波 ちひろ

第12回 春日井キャンサーオープンカンファレンス
平成25年7月4日

抗がん剤の危険 —血管外漏出と曝露—

春日井市民病院 形成外科
菱田 雅之
春日井市民病院 薬剤部薬剤科
大岩 拓馬
外来化学療法センター がん看護専門看護師
廣畑 加代子

第13回 春日井キャンサーオープンカンファレンス
平成25年8月1日

放射線治療 —粒子線治療を含めて—

名古屋市立大学病院 中央放射線部 准教授
柳 剛

第14回 春日井キャンサーオープンカンファレンス
平成25年9月5日

がん治療における“薬薬連携”のとりくみ 味覚障害の食事の工夫 (栄養管理室からの“ワンポイントレクチャー”)

あさひが丘薬局勝川店 薬剤師
牛田 誠
春日井市民病院 薬剤部薬剤科主任
鈴木 大吾
春日井市民病院 技術部栄養管理室
大門 有紀

第15回 春日井キャンサーオープンカンファレンス
平成25年10月3日

“口腔癌” 動注化学放射線療法における看護師、歯科衛生士の役割

春日井市民病院 歯科口腔外科 部長
丹下 和久
春日井市民病院 皮膚・排泄ケア認定看護師
横井 さつき
春日井市民病院 看護局 歯科衛生士
清水 純子

第19回 春日井キャンサーオープンカンファレンス
平成26年2月6日

胃がん

春日井市民病院 外科 医師
井田 英臣
春日井市民病院 技術部栄養管理室 栄養士
岩月 友子
春日井市民病院 看護局（西4階） 主査
吉原 幸

第16回 春日井キャンサーオープンカンファレンス
平成25年11月7日

“肺がん”

春日井市民病院 呼吸器科 部長
鳥居 正芳
春日井市民病院
看護局東6階クリニカルリーダーナース 看護師
川口 かおり

第20回 春日井キャンサーオープンカンファレンス
平成26年3月6日

“がんサバイバー”の抱える社会的問題

NPO法人ミーネット 理事長
花井 美紀
春日井市民病院 小児科 部長
河邊 太加志

第17回 春日井キャンサーオープンカンファレンス
平成25年12月5日

“がんの病理診断”

春日井市民病院 病理 部長
立山 尚
春日井市民病院
技術部臨床検査技術室・細胞検査士 主査
加藤 浩

第18回 春日井キャンサーオープンカンファレンス
平成26年1月9日

“化学療法とde novo B型肝炎”

春日井市民病院 消化器科 第二部長
高田 博樹
春日井市民病院 薬剤部薬剤科
鈴木 敦詞

剖検番号564

平成25年4月23日

呼吸不全で来院した1例

主治医

春日井市民病院 循環器科：横井 剛

研修医（臨床）：大久保 徳雄

プリオン病の1例 特別講演「プリオン病について」 岩崎 靖 先生

主治医

春日井市民病院 神経内科：野崎 康伸

剖検番号567

平成25年6月27日

弓部洞脈瘤の1例

主治医

春日井市民病院 循環器科：石田 久美子

研修医（臨床）：佐々木 裕子

剖検番号572

平成26年2月12日

心肺停止状態で搬送された 66歳男性の症例

主治医

春日井市民病院 循環器科：滝川 智信

研修医（臨床）：間宮 崇

研修医（病理）：木野村 依子

剖検番号566

平成25年9月12日

若い女性のCPAの1例

主治医

春日井市民病院 循環器科：滝川 智信

研修医（臨床）：内山田 修一

研修医（病理）：内山田 修一

剖検番号571

平成25年12月11日

透析導入後、 急速な全身状態悪化をみた1例

主治医

春日井市民病院 内科：横江 優貴
谷口 容平

研修医（臨床）：土井 孝信

剖検報告

平成25年度病理解剖報告

剖検番号	年齢	性別	科	臨床診断	病理解剖学的診断
569	52歳	女	産婦人科	子宮肉腫	1. 未分化子宮内膜肉腫（高悪性度子宮内膜間質肉腫）転移あり：両側卵巣、腹膜、横隔膜、左頸部リンパ節 2. 循環障害（腹水5300ml、左右肺動脈血栓症、左右内頸静脈血栓症、両側上肢浮腫、肝うっ血 3. 気管支肺炎、左下葉無気肺 4. 骨髄過形成 5. 大動脈粥状硬化症 6. びらん性食道炎 7. 腸腰筋炎 8. 左腎嚢胞
570	76歳	女	神経内科	アテローム血栓症、誤嚥性肺炎、声帯麻痺、喉頭浮腫	1. 脳梗塞 2. DIC 3. 肺うっ血、多発性肺動脈血栓症、肺出血、嚥下性肺炎、間質性肺炎 4. 心肥大（355g）、虚血性小線維化巣 5. 大動脈粥状硬化症 6. 喉頭浮腫、喉頭筋軽度萎縮 7. 逆流性食道炎 8. 肝うっ血 9. 腎うっ血、腎硬化症 10. 胃びらん 11. 大腸憩室症
571	64歳	男	内科	左上腕蜂窩織炎 末期腎不全、ヘノッホ・シェーンライン紫斑病、両側胸水、褥創	1. 線維素性心外膜炎（尿毒症性） 2. 循環障害（腔水症 左胸水900ml、右1600ml） 3. 糖尿病性腎症 4. 心肥大（390g） 5. 大動脈粥状硬化症 6. びらん性胃炎 7. 骨髄赤芽球過形成 8. 膀胱炎 9. 大腸管状腺腫 10. 上行結腸憩室症 11. 肝血管腫 12. 胆嚢結石 13. Schonlein-Henoch紫斑病 14. 仙骨部褥創 15. 高度いゝ瘦
572	66歳	男	循環器科	心房細動	1. 新鮮および陳旧性心筋梗塞 2. 僧帽弁置換術後状態、心肥大（720g） 3. うっ血肺水腫、びまん性肺胞出血、気管支肺炎、間質性肺炎 4. 消化管出血性多発性びらん、虚血性腸炎 5. 肝うっ血 6. 大脳貧血性梗塞（左後頭葉） 7. 腎硬化症 8. 前立腺肥大症 9. 縦隔内出血、右血性胸水（1000ml）
573	64歳	男	循環器科	肺高血圧症、慢性腎不全、破壊性脊椎炎	1. 右甲状腺乳頭癌（ラテント癌） 2. 好酸球性心筋炎、心肥大（535g）、陳旧性心筋梗塞 3. 肺うっ血、間質性肺炎、気管支炎 4. 骨髄軽度過形成（好酸球増加） 5. 両側多発腎嚢胞（透析導入状態） 6. アミロイドーシス（小腸、大腸、肝、脾、腎） 7. 動脈粥状硬化症 8. 胃腸憩室症 9. 慢性膀胱炎 10. 破壊性脊椎炎
574	69歳	女	外科	腸閉塞術後状態、糖尿病性慢性腎不全	1. 麻痺性イレウス（虚血性腸炎）、小腸吻合術後状態 2. 大動脈粥状硬化症 3. 心肥大（345g）、陳旧性心筋梗塞 4. 萎縮腎（透析腎） 5. 結節性甲状腺腫 6. 大腸管状腺腫 7. 胃潰瘍
575	86歳	男	内科	髄膜炎、腎盂腎炎、偽膜性腸炎、糖尿病、慢性腎不全、慢性心不全	1. 前立腺癌（ラテント癌） 2. 膀胱癌術後状態（再発・転移なし） 3. 化膿性髄膜炎 4. 両側大肺葉性肺炎、右肺動脈血栓症 5. 陳旧性心筋梗塞、心肥大（530g）、非細菌性血栓性心内膜炎、右冠動脈ステント留置状態 6. 慢性肝うっ血 7. 高度腎硬化症、多発性腎嚢胞、慢性腎不全状態 8. 消化管多発性びらん 9. 急性膀胱炎 10. 下大静脈血栓症 11. DIC
576	76歳	女	神経内科	両側肺炎、敗血症、C型肝炎	1. 全身性クリプトコッカス感染症（肺、肝、腎、心、脾、副腎、甲状腺、舌、子宮、卵巣、脳、下垂体、骨髄） 2. 肝硬変（860g） 3. 骨髄軽度過形成 4. 動脈粥状硬化症 5. 子宮筋腫
577	81歳	男	神経内科	筋萎縮性側索硬化症	1. 前立腺癌（ラテント癌） 2. 筋萎縮性側索硬化症（中等度） 3. 大動脈解離（Stanford A型）、人工血管置換術後状態 4. 気管支肺炎、真菌感染症 5. 大動脈粥状硬化症 6. 腎硬化症、急性腎盂腎炎 7. 急性前立腺炎 8. コレステロール塞栓症（脾臓、横隔膜） 9. 舌真菌感染症 10. 骨髄過形成 11. 左第4趾尖部壊死 12. 左腎摘出後状態
578	61歳	男	外科	胆管癌	1. 中上部胆管癌拡大肝右葉、尾状葉切除後状態、腫瘍の残存なし 2. 残存肝の広範囲の変性・壊死 3. 珪肺症（両側、高度）、多発性血栓、局所的気管支肺炎 4. 急性尿細管壊死 5. DIC、敗血症 6. 感染性心内膜炎 7. 胃びらん 8. 虚血性腸炎 9. 骨髄過形成 10. サルコイドーシス
579	80歳	女	内科	急性進行性糸球体腎炎（ANCA関連血管炎）、大動脈解離、敗血症	1. ANCA関連血管炎（顕微鏡的多発血管炎、半月体形成性腎炎、びまん性肺胞出血、間質性肺炎） 2. 大動脈解離（Stanford A型） 3. 肺化膿症、肺真菌症、肺胸膜炎 4. 敗血症 5. 多臓器不全 6. DIC 7. 消化管多発性びらん 8. 急性膀胱炎 9. 膀胱炎 10. 大動脈粥状硬化症、嚢胞性中膜壊死 11. 脂肪肝 12. 大腸管状腺腫 13. 子宮平滑筋腫 14. 右腎髄質線維腫 15. 仙骨部褥創、左前腕シャント造設後状態
580	48歳	男	循環器科	急性心筋梗塞、心原性ショック、肺炎、右下肢壊死	1. 新鮮および陳旧性心筋梗塞 2. 冠動脈粥状硬化症（左前下行枝ステント留置状態） 3. 器質性肺炎、気管支肺炎、肺胞内出血、慢性肺うっ血 4. 慢性肝うっ血、胆汁うっ滞 5. 急性胆嚢炎 6. 虚血性直腸炎 7. 急性腎盂腎炎 8. 右下肢循環障害（筋肉壊死） 9. 上行結腸憩室症 10. 骨髄過形成 11. 精巣精細胞低形成
581	63歳	男	神経内科	筋萎縮性側索硬化症	1. 甲状腺乳頭癌（ラテント癌） 2. 筋萎縮性側索硬化症 3. 肺うっ血水腫 4. 急性膀胱炎 5. 脂肪肝 6. 胆嚢結石症 7. 大動脈粥状硬化症 8. 腎硬化症 9. 骨髄過形成 10. 仙骨部褥創 11. 気管切開後、胃瘻造設後状態
582	69歳	女	循環器科	心不全、拡張型心筋症、狭心性、心房細動、高血圧、糖尿病	1. 拡張型心筋症（625g） 2. 左冠動脈前下行枝ステント留置状態 3. 大動脈、冠動脈粥状硬化症 4. 慢性肺うっ血、気管支肺炎、器質性肺炎、肺動脈血栓症 5. 肝うっ血 6. 偽膜性および感染性腸炎 7. 慢性膀胱炎 8. 多発性腎嚢胞、腎硬化症 9. 精巣萎縮 10. 骨髄膠様変性 11. 腹水症（300ml）
583	66歳	男	循環器科	腹部大動脈瘤破裂	1. DIC 2. 胸部および腹部大動脈瘤、高度粥状硬化症 3. 出血性胃潰瘍 4. 心肥大、陳旧性心筋梗塞 5. 腰椎骨折、肺脂肪塞栓症 6. 肝うっ血、肝細胞壊死、門脈内血栓症、von Meyenburg complex 7. 虚血性腸炎、上腸間膜動脈血栓症 8. 腎硬化症 9. 腺腫様甲状腺腫

監 修 渡 邊 有 三
編集委員 笹 本 彰 紀
坂 洋 祐
田 中 真己人
鈴 江 智 恵
坂 井 勝 己
大 塚 淳 弘
服 部 芳 明

春日井市民病院年報 第1巻

平成27年3月30日 印刷

平成27年3月31日 発行

編 集 春日井市民病院年報編集委員会

発 行 春日井市民病院

〒486-8510 春日井市鷹来町1丁目1番地1

電 話 (0568) 57-0057

印刷所 木野瀬印刷株式会社

〒486-0958 春日井市西本町3丁目235番地

電 話 (0568) 31-3118
